

資料編

碧南市の財政状況	17
へきなんの壁	18
碧南市における協働の課題	19
会議開催状況	20
会議記録	21
第 1 回 (21)
第 2 回 (27)
第 3 回 (30)
第 4 回 (40)
第 5 回 (50)
第 6 回 (57)
第 7 回 (64)
第 8 回 (72)
第 9 回 (81)
第 10 回 (86)
第 11 回 (90)
第 12 回 (95)

財政状況

歳入では、平成 19 年度の市税収入 224 億円をピークに平成 21 年度では 156 億円と、68 億円（30%）減少したまま回復のめどは立っていません。（平成 21 年度は、財政調整基金と市債で補填）

歳出では、経常的経費（人件費、物件費、維持補修費、扶助費、補助費等及び公債費など）の割合が多い。扶助費は今後も増加が見込まれることから、市独自の補助制度、施設の維持管理費の節減が必要になるのでは。

市の貯金にあたる財政調整基金は、平成 21 年度に 33 億円取り崩し、残額は 52 億円となっています。歳出削減ができなければ、近い将来にゼロになる可能性もあります。

普通会計決算状況

歳 入

(千円)

区 分	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
総 額	30,012,036	32,424,410	32,184,700	32,109,910
市 税	20,513,610	22,429,097	21,051,964	15,599,212
国庫支出金	1,704,979	2,166,311	1,451,630	3,006,791
繰入金	120,467	2,980	684,722	4,532,115
市 債	207,400	800,600	1,428,900	2,075,881

歳 出

(千円)

区 分	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	
総 額	28,274,838	29,726,653	30,038,789	30,242,449	
消費的経費	計	16,236,444	16,585,884	17,219,891	19,689,459
	人件費	4,109,225	3,869,670	3,933,545	3,809,613
	物件費	4,780,561	4,987,912	5,149,432	4,846,443
	維持補修費	332,989	354,939	386,570	271,172
	扶助費・補助費等	7,013,669	7,373,363	7,750,344	10,762,231
投資的経費計	3,865,832	5,441,857	4,150,062	3,371,917	
公債費	2,217,735	2,447,478	2,081,945	2,027,472	
繰出金	3,067,888	3,077,728	3,611,998	3,276,145	
その他	2,886,939	2,173,706	2,974,893	1,877,456	

財政調整基金

(千円)

区 分	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
財政調整基金	6,531,710	7,543,821	8,615,781	5,227,630
増減	2,022,167	1,012,111	1,071,960	△ 3,388,151

(図1) へきなんの壁

		全体 (A)			住民同士 (B)			住民と役所 (C)			役所内部 (D)						
仕組み①	情報	組織	ルール	単年度制 →複数年 制へ	経費が十分に ないで多数の考 案でも実用 には	地域住民 間の壁	若者が後継 者として 育っていない	行政として書 物にならざる を得ない対 応・手続は	書類の 提出	数合わせ	継続性 メンバーが変 わると考えが 変わる	消化 行事	各課との 横の繋が り	道幅拡張工 事の継続 (行政側)			
	意識②	陰徳の美 が邪魔を する	当事者意識の 欠如 (やら まわっている 感)	人・人との 関わり	自分 勝手	公共の利益 より個人の 利益を主張 しすぎる	役員意 識の壁	隣同士の壁 がりが薄れ てきている ようだ	公務員意 識と市民 意識	職員は仕事 なので、と イベントなど で言われる	結果の報 告がない	職務の異動 によって職務 の連続性が 失われる のではなか いか	市議員の ボランティア				
	儲くと 争はど うい うこと ?	一部の 人の 自己 主張	自分 自身 の壁	利己 主義	利益がな げればや むを得な いと考え る		まちづくり コーディネ ーターの 不在	友愛活動 と民生委 員活動	官から 民へ	経済的 票づけ	行政と の壁	行事を行う の二年 前層の 違う人 をまと めるこ とは		目的 不明			
	文化	金(予算)	経費 負担	市議の活 動報告	「公」 「私」	地域とい う概念は?	ボラン ティアっ て難しい	F D C A	交通の 進まない	国の政策 ⇒市民の 利益	計画作成に おける総論 各論の誤り	活動の三 体のあい まいさ	便宜・ 融通	かからな いことは 市役所へ	全て知っ ている、 全て できるはず	主催者 都合	有効活用 できない

上記「壁」をより単純化し、以下の整理も行いました。

	全体を通じた課題	住民同士の課題	住民と役所の課題	役所内部の課題
しくみ	<ul style="list-style-type: none"> 情報の提供・共有・保護 組織のあり方の見直し ルールの必要性 活動資金 地域という概念をどう捉えるか 小学校の生活力教育不足 	<ul style="list-style-type: none"> 区活動の負担感 区費の不平等 区の役員のなり手不足・後継者不足 個人情報保護 まちづくりコーディネーターの不在 違うタイプの活動の連携 	<ul style="list-style-type: none"> P・市民意識とズレた事業内容・企画 D・官民の役割分担・行政との接点不足 行政の画一的な対応・手続きの煩雑さ 行政と区との関係 活動資金 C・事業成果の報告・検証が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 国の政策と地方の実態との乖離 タテ割り 予算の単年度制 職員の異動と継続性
意識	<ul style="list-style-type: none"> 公共心の低下 自発性・主体性の低さ コミュニケーション力の問題 自立つことを嫌う心情 	<ul style="list-style-type: none"> 公共心の低下 自発的な参加意識 近隣のつながり意識の低下 区の役員意識 外国人住民との共生の可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 公務員意識と市民意識のズレ 市民の行政への依存心 多様な年代層/主体の住民のまとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> 職員のボランティア意識

(図2) 碧南市における協働の課題

	住民同士		住民と市役所	
	課題	解決の方向	課題	解決の方向
P	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な年代・立場の住民をまとめる難しさ ・コーディネーター不在 ・外国人との共生 		<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識とズレた事業内容・企画 ・役所の仕組・基準と住民のニーズが合わない ・多くの人の意見が反映できていないのでは ・前例踏襲・先送り 	<ul style="list-style-type: none"> ・動ける・やれるところから、やれる仕組を ・現場の感覚を活かせる仕組を
D	<ul style="list-style-type: none"> ・自発性の欠如 ・自助・共助・公助の意識の不足 ・失われてきた絆 ・見て見ぬふり・無関心 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加の制度化 (カタチから入る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民の役割分担 ・行政の画一的対応 ・行政と区の関係 ・活動資金 ・行政への市民の依存心 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・区活動の見直し (負担感、区費、役員) ・個人情報保護 		<ul style="list-style-type: none"> ・事業成果の報告・検証が不十分 ・何のためにやっているのかのチェックが抜けている 	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・違うタイプの活動の連携 		<ul style="list-style-type: none"> ・さらなるアクションへの視点がない 	

浮かび上がった検討テーマ

- 住民の自発性を生むしくみ
- 住民ニーズや現場感覚を活かすしくみ
- やりっ放しにならないしくみ

会議開催状況

内容	年月	場所
第1回検討会議	平成21年12月14日(月)	市役所2階 会議室4・5
第2回検討会議	平成22年 1月20日(水)	〃
第3回検討会議	2月16日(火)	市役所2階 談話室2
第4回検討会議	3月16日(火)	〃
第5回検討会議	4月14日(水)	市役所2階 会議室4・5
第6回検討会議	5月12日(水)	〃
第7回検討会議	6月 9日(水)	〃
第8回検討会議	7月14日(水)	〃
第9回検討会議	8月11日(水)	〃
第10回検討会議	9月 8日(水)	〃
第11回検討会議	10月13日(水)	市役所2階 談話室2
第12回検討会議(予定)	平成23年 1月12日(水)	市役所2階 会議室4・5

※会議時間はいずれも19時～21時

【その他】

平成23年 2月20日	シンポジウムの開催
-------------	-----------

へきなんの協働を考える会 会議録

第1回 へきなんの協働を考える会 会議録

日 時 平成21年12月14日 19:00～

場 所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（35名中32名）

（団体選出） 板倉通文、河原克人、中根堅太郎、神谷賢司、石川鋼逸

角谷信二、板倉峰尾、竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小笠原勝人、
小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 林田要、須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、
長谷川哲巳、杉浦彰

（市職員） 菅沼正義、鈴木博道、松野盛高、金原厚夫、長谷川有里、金田雪雄、
鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（市長） 禰宜田政信

（事務局） 市民協働部長 片山初敏、地域協働課長 山田忍、協働推進係長 生田和重、
協働推進担当係長 亀島政司、協働推進係 野澤武司

傍聴者 なし

会議内容

- 1 市民憲章唱和
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ

先日の岩崎先生の講演は非常に分かり易く、協働というのは単なる私の思いつきで言っているのではなくて、必然的に必要になってくることだとお分かりになっていただけかと思います。40年程前のマツモトキヨシ市長の時代から何でも市役所が仕事を引き受けると言う時代が長く続きました。しかし、人口減少社会によって税収が減って行く中で、市民の皆様の仕事に担っていただく社会を作らなければならない状況です。現在、碧南市は他の自治体に比べ財政的に恵まれた状態にありますが、将来的に厳しい状況に置かれるのは間違いありませんので、新たな協働の仕組みを作らなければなりません。

今日から1年間ほどかけて、様々な団体の代表や公募市民の皆様、経験豊かな先生方が英知を結集して協働の仕組みを考えていただけると言うことで、非常に期待をしております。

4 事務局説明

- (1) へきなんの協働を考える会設置要綱について
 - ・資料1にあるとおり定める。
 - ・職員を除き、会員には会議1回につき6,500円(内10%源泉徴収)の謝礼が支払われる。
 - ・この会の会員名簿は公開する。(会員の名前のみ)
 - ・会議結果の概要は、ホームページに掲載する。
- (2) へきなんの協働を考える会会議傍聴ルールについて
 - ・資料2にあるとおり定める。

5 会長の指名

- ・市長が中根堅太郎氏を会長に指名し、受諾された。
- ・中根会長挨拶

私は碧南市連絡会員の棚尾地区副幹事をしております。その活動を通して地域とのふれいあいを初めて体験しました。その中で子供たちと接する機会もあり、子供の笑顔を見ていると「子供っていいな」と改めて感じます。しかし、一方で子供たちの数が減っていることも感じます。

そのような背景の中で、我々35名で1年後に良い提言をしたいと思っております。具体的には暗中模索ですが、頑張りたいと思います。今回、様々な団体から、様々な経験を持った優秀な方々集まっていますので、きっといい提言ができると思います。

6 自己紹介

・各会員あいさつ

板倉 通文 新川地区副幹事

河原 克人 サラリーマンをやっている。中央地区の副幹事

中根 堅太郎 棚尾地区副幹事 地区で神社の草取りをすることを提案した。

小野 洋雄 欠席

神谷 賢司 本職は新聞店 昨年新川地区副幹事を経験 ボランティア活動推進協議会の運営、防災ボランティア、はなとみどりのまちづくりネットワークに関わっている。

石川 鋼逸 碧南青年会議所の来年度理事長

角谷 信二 碧南市消防団団長 本年度から2年間の任期

板倉 峰尾 碧南市文化協会副会長 学校の音楽教師だった。市の混声合唱団に関わっている。

竹原 幸子 碧南市ボランティア連絡協議会代表 碧南市民環境会議で市の基本施策の策定にも関与

浅井 宣 老人クラブ連合会の副会長 鶴ヶ崎の老人会の会長も務めている。
遠山 良徳 碧南商工会議所事務局長 農商工連携の事業を進めていく。
磯貝 忠通 碧南市商店街連盟副会長 大浜下の天神会商店街振興組合理事長
大浜地区歩いて暮らせるまちづくり推進委員会副委員長
小笠原 勝人 愛知中央農業協同組合碧南営農センター センター長
小林 道広 青少年育成推進委員 連合愛知三河西地域協議会の副代表 町内
会の役員 子供会役員の経験がある。
永坂 幸子 女性団体連絡協議会代表 米消費活動や環境に関する活動を行っ
ている。
森下 昌美 体育協会副理事長 空手の指導をしている。トヨタ車体に勤めてい
た。
林田 要 一般市民として、身近な疑問・課題を一緒に考えていきたい。
須田 翠子 愛知消費者協会西三河支部に所属している。
荒井 秋男 平成15年に子ども会育成連絡協議会会長 昨年市政60周年の
イベントの委員長を経験
本田 和明 税理士 高浜市でまちづくりや地域政策に関わっている。
石川 清勝 アイシンに勤務していた。地震の応急危険度判定士 17年度東山
区長 市政60周年元気ッスプロジェクトに参画 現在、交通指導員
石川 幸雄 デンソーで設備保全をしていた。タイ、中国、インドに単身赴任経
験あり。ものづくりセンターで少年少女発明クラブの指導員をしてい
る。
長谷川 哲巳 三年前から青少年育成推進委員連絡会会長 青少年育成市民会
議の会長 西端おやじの会油ヶ淵サポーターズクラブ会員 春
の蓮如ウォーク実行委員会委員
杉浦 彰 棚尾で家電販売店を営んでいる。棚尾まちづくり推進委員会委員 保
護司 碧南市男女共同参画社会推進事業実行委員会委員
杉浦 英樹 欠席
菅沼 正義 経営企画課 第5次碧南市総合計画の策定に関わっている。昨年
は棚尾地区まちづくり推進委員会に関わった。
鈴木 博道 財務課 今までインフラ整備をやってきた。今年から予算関係の仕
事をしている。
堀田 葉子 欠席
松野 盛高 高齢介護課 介護保険の担当 消防団経験あり。
金原 厚夫 国保年金課 障害者の医療費助成を担当
長谷川 有里 図書館司書 環境課に在籍した当時、資源ごみステーションに関

わる仕事をしていた。

金田 雪雄 都市計画課 6年間民間経験あり。地区計画の準備段階に携わっている。

鈴木 美奈子 生涯学習課 ヘキサポスタッフなどの団体と仕事をしている。

鈴木 洋平 芸術文化ホール 岩崎先生の講演に感銘を受けた。碧南の将来を考えて生きたい。

岡本 和雄 社会福祉協議会 地域福祉に関わっている。

・岩崎先生挨拶

碧南にご縁がありまして、アドバイザーになることになりました。私ども3人は皆様の議論のお手伝いをさせていただきだけで、皆さんの議論を引っ張っていくことはあまり考えていません。皆さんが議論をしやすいような雰囲気を作りたいと思っています。

会議の冒頭、市民憲章のなかで「話し合いの輪をひろげ、なごやかな社会をつくりまします。」とありましたが、まさに協働の基本になってくると感じました。

・松井先生挨拶

私は地方公務員、NPOの専従職員を経て、現在は大学職員でNPOの代表もしております。色々な立場を経験しておりますが、基本的には市民の立場で考えていきたいと思っております。

・小林先生挨拶

いくつかの市で協働の仕組みを作る会に携わった経験があります。愛知県内では、江南市の市民協働研究会の会長をしておりました。現在、日進市でもアドバイザーをしております。それぞれの市の協働を考える会議の頭には地名がついています。これは、それぞれのまちによって協働というものが異なるということの意味しているのではないのでしょうか。先ほど岩崎先生も仰いましたが、我々は答えを出す立場ではありません。どのような議論をすべきかを示し、皆さんでその答えを出す。それが「へきなんの」協働になっていくのではないのでしょうか。

7 議事

(1) 副会長の指名

・会長が団体選出の男性であるため、男女共同参画等を考慮して、公募市民の女性である須田翠子氏を指名、受諾された。

・須田副会長挨拶

碧南を愛する気持ちは誰にも負けないと自負しております。また、このような機会を与えていただき感謝しております。皆様の協力を得て、微力ながら任務を務めさせていただきます。

(2) へきなんの協働を考える会会議基本ルールについて

- ・資料3のとおり定める。

〈質問〉結論を急がずお互いが納得のいくまで議論を深めるとあり、一方では、会議の終了時間を守るとあるが、議論が白熱した場合はどうするのか。(会員)

〈回答〉議論が白熱した場合は、会長が皆さんに諮ったうえで判断し、会議を増やしてもらってもかまわない。会議が増えたことによる会員の報酬は、予算に限度はあるが、予算の流用で対応していく。(事務局)

〈質問〉活動のルールのところのあたり前のことが書かれすぎている。そうではなくて、この会議の個別のルールのみ書いておけばよいではないか。(会員)

〈回答〉確かに、一般常識ではあるがこれがなかなか守られない。ここに書くことで皆さんの共通認識としてほしい。(事務局)

〈質問〉会議を欠席した場合、欠席した会議の議事録等は送付してもらえるのか。(会員)

〈回答〉欠席した会員のみでなく、全ての人に会議結果内容を送付していく。また、ホームページにも会議の内容を掲載する予定である。(事務局)

〈質問〉どのように傍聴可能という情報を発信していくのか。(会員)

〈回答〉ホームページで傍聴可能ということを発信していく。(事務局)

- ・アドバイザーからの意見

集中して会議ができるのは2時間が限界であるので、可能な限り2時間以内の会議にすると良い。それでも時間が足りないようなら、事務局の言われたとおり、会議を増やせばよい。(岩崎先生)

他の市町村の市民会議やボランティアの会議を見ても、一般常識が守られていない。こうして書面で記載して共通認識を持つことは非常に重要である。(松井先生)

8 今後の会議運営

(1) スケジュール等について

- ・資料4のとおり予定をする。

〈質問〉35名全員で会議を進めるのは非効率である。要綱では部会を置くことができるのとあり、第2回会議で部会を作るような提案を事務局はする予定か。(会員)

〈回答〉確かに35名の会員が一同で会議を行うことは難しい。グループをつくりワークショップ等の形式で進めていく予定である。要綱にある部会の設置は、それぞれのワークショップの中で必要があれば、別に部会会議を行う可能性もある。(事務局)

〈質問〉4月以降の日程を教えてほしい。(会員)

<回答>様々な行事日程との調整があるので、いましばらく待ってほしい。ただ、時間については、仕事をお持ちの方もいるので、19:00~21:00で開催したい。(事務局)

<質問>1年かけて検討をしていくというのは時間をかけすぎである。例えば、良い案があれば、その都度実行をして検証をするほうが良い。(会員)

<回答>今回示したスケジュールでも、他市と比較して非常にタイトなものである。この中でやっていただきたいと考えている。また、実行と検証については、予算をつけるという意味で翌年度になる。(事務局)

<質問>改善するには、計画、実行、検証を繰り返していくことが重要である。(会員)

<回答>議論に時間がかかることが想定できる。できるものは試行し、検証していくこともありうる。(岩崎先生)

(2) 次回の内容および宿題について (岩崎先生説明)

①碧南で様々な活動をしていく中で壁(課題)を感じたことは何かを宿題シートに自由に記載していただきたい。次回、内容を報告し、テーマ分けをしていく。

②また、基本的な用語に対する共通理解を進めるため、前回の講演資料・概要を読んで意味の分からない言葉があれば宿題シートの下段に列記していただきたい。

9 その他事務連絡

(1) 債権者登録

・報酬の振込先を登録されていない人には登録用紙を同封したので、次回までに提出する。

(2) 講演会資料

・岩崎先生の講演資料については皆さんに配布した。手元にない方は事務局で配布している。

(3) 次回会議

・次回は平成22年1月20日(水)19時より会議室4

(4) 名札

・毎回会議終了後名札を返却する。

第2回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年1月20日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（35名中33名）

（団体選出） 板倉通文、河原克人、中根堅太郎、小野洋雄、神谷賢司、
板倉峰尾、竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小笠原勝人、
小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 林田要、須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、
長谷川哲巳、杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫、
長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 市民協働部長 片山初敏、地域協働課長 山田忍、協働推進係長 生田和重、
協働推進担当係長 亀島政司、協働推進係 野澤武司

傍聴者 2名

会議内容

1 市民憲章唱和

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 第1回会議概要について

(2) 「壁」について

(3) 岩崎先生の講義についての質疑応答

4 その他事務連絡

(1) へきなんの協働を考える会会員名刺の作成について

(2) 会議資料等の送付方法について

第2回へきなんの協働を考える会
検討課題の抽出作業で浮き彫りになった「壁」

◇全体に及ぶ課題

- ・役所の役割が何処までか解らない（役所の人間も）
- ・三河魂を持つ団塊の世代は使いこなすのが難しい。
- ・名簿・書類の提出が多いので面倒。
- ・連帯感や当事者意識の欠如。
- ・地域と言う概念が希薄になっている。
- ・市民となるために平等に役割を受ける環境がない。
- ・市民祭り等のイベントにおいて、活動主体の曖昧さがある。
- ・違う立場の者同士が、同じ土俵に立てない。
- ・子ども会・婦人部・区役員など、別組織が行事などで協力しにくい。
- ・若い人が後継者として育てていない。

◇市民の課題

（1）個人

- ・家庭での創意工夫などの教育不足。
- ・地域での活動の仕方が分からない。
- ・行事への参加意識が低い。
- ・行政がやらなければ始まらないと考える人がいる。
- ・利益がなければやらない人がいる。
- ・自己主張が過ぎる人がいる。
- ・しっかり議論できる大人が少ない。

（2）行政との関係

- ・連絡委員会が本当に連絡だけで終わる。
- ・学校教育や家庭教育には口出しし難い。
- ・そもそも行政と接点がない人もいる。
- ・相手が市職員とわかると役割を押し付ける事がある。
- ・市なら全て知っている、全てできるはず。と思っている人がいる
- ・分からないことは全部市役所へ。

（3）区の運営

- ・マンネリでだらだら続いている事業がある。
- ・目的不明・効果が期待できない慣習的イベント。
- ・メンバーが変わると考えが変わるので継続性がない。

- ・「前例どおり」を打ち破れない（1年では）
- ・意見の相違を話し合いでまとめるのは難しい。
- ・戸数が減少し、一戸当たりの負担が大きくなってきた。
- ・町内会未加入者の増加が目立つ。
- ・戸別的閉鎖化が進んでいる。
- ・経費負担を嫌がる人が多く、新しい事を何も出来ない。
- ・主催者の都合が優先されがち。
- ・連絡委員の役割が行政情報の伝達、提供に過ぎない。

（４）区を越えたまちづくり

- ・まちづくりコーディネーターの不在

◇行政の課題

（１）行政問題

- ・行政組織内でのジェネレーションギャップが大きい。
- ・民間人の気持ちを失っている。
- ・公務員意識と市民意識のギャップを埋められない。
- ・行政特有の「一応行なった」だけ、がある。
- ・小学校での生活力教育などがうまくいっていない。
- ・各課との横のつながりが希薄。
- ・行政として画一的にならざるを得ない対応・手続きがある。
- ・市民活動を支援・養成する意識が低い。

（２）市民との関係

- ・実施した企画の結果が市民にうまく伝わっていない。
- ・情報開示が少なすぎると言われる。
- ・市職員のボランティアが難しい。仕事なんですよ、などと言われる。

◇その他の課題

- ・市議の活動報告が不十分。
- ・外国人住民の受け入れ。

第3回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年2月16日 19:00～

場所 市役所2階 談話室

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（35名中33名）

（団体選出） 板倉通文、河原克人、中根堅太郎、小野洋雄、神谷賢司、
角谷信二、板倉峰尾、竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小笠原勝人、
小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 林田要、須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、
長谷川哲巳

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫、
長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 市民協働部長 片山初敏、地域協働課長 山田忍、協働推進係長 生田和重、
協働推進担当係長 亀島政司、協働推進係 野澤武司

傍聴者 2名

会議内容

1 市民憲章唱和

2 会長あいさつ

ありがとうございました。三回目なので慣れてきたと思います。皆さんの顔も大体見覚え、まだ名前と顔が一致しない人もいますが、本当の意味でのディスカッションができるようになるかなと期待しています。実はある方の提案でせっかくこういう会を催していて、そういう意味では皆さんと岩崎先生の方から壁を感じた事はありませんか、と言うのが前回の宿題でディスカッションしたわけでありますが、メンバー35人がそれぞれ壁があってはいけないので、その壁がスムーズに取り払われるように、3月から4月ぐらいに懇親会というのを開いて、まさに壁を取り払った和やかなディスカッションができれば更にこの会の目的にかなった話になるのじゃないかと思ひまして、この提案に変えて冒頭の挨拶と変えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 岩崎先生の講義に対する質疑への回答

別紙「岩崎への質問・解説してほしい言葉」参照

以下、回答への追加質問・意見等

会員：ブラジル人達がたくさんいて去年「元気ッス！へきなん」でブラジルの焼肉を

やりたいと市役所に言ったら、たいした理由もなく断られたらしい。なぜだろうかと僕に聞いてきたけど、勇気を持って市役所に行く事をしなかった。どこかそういう面では日本人は常識はあるかもしれないが排他的な民族ということも理解しなければならない。そういうこともあって本当に碧南市がそういうことをやっていけるかなというのも大きな壁の1つかなと。今の先生の話でよく分かりました。

会員：西端は高浜、安城に隣接しているという事から考えると地域という考え方が碧南市の枠を越えているのかなと思う。今回皆さん意見が色々出されていますが、碧南市の何処に住んでいるのかが分かりません。それによっても考え方とか想いが違うのではないかと思いました。私は生まれが碧南ではないので、何とか溶け込もうとしている。地域による考え方の違いを考慮することも大切な事かと思しますので、それもふまえて進めてほしいと思います。

岩崎：わたしたちも新参者ですから、碧南の地域の詳しい事はこれから勉強していかなければいけません。高浜と安城に挟まれた碧南と、新しい住民と古株の住民、そういった区分というものも必要かもしれない。そういう事を意識しながら議論を進めていければなと思います。

今日だけでなく、月一回はこうやってみなさんとお話させていただきたいと思います。一度飲みましょうよというときも、私共もお付き合いさせて頂きたいと思います。

(2) へきなんの「壁」について追加・まとめ

別紙「へきなんの「壁」仕分けシート」を参照のこと

仕分けシートを参照しながら、壁の性質をグループ分けしていく。

会員：経費をかけないで多数の参加者を集めるにはというのは住民同士のB-1に入るのではないかと。

小林：経費をかけないで人を集める、そういう仕組みを考えないといけないということですね。

会員：地域住民間の壁はB-1。

小林：その地域住民間というのは、西端とか大浜だとかそういう地域ごとの壁ですか。それとも同じ中に住んでいる人同士の壁ですか。これは意識じゃなくて仕組みでしょうかね。

会員：難しいですね。意識としても仕組みとしても。

岩崎：それを解決しなければいけないという意味で意識が必要だということになるのでは。

小林：なるほど。何らかの仕組みがあれば壁をちょっとは乗り越えられる。改善でき

そんな気がします。

会員：今、個人情報というのが壁なんですけども、例えば、隣の人が高齢者の方でお二人住んでいたのが、お一人になってしまったのか分からない場合がある。

小林：そうすると今のと関連して、この「個人情報」というのがどうも仕組みとしては壁になりそうだという事ですね。住民同士の壁だけではなくて、個人情報はもしかしたら全体にかかわるかもしれないですね。

会員：仕分けの進め方にですが、短い言葉の中に発表した人の想いが入っています。簡単に第三者が仕分けするのは良くありません。壁を感じた人が仕分けした方がうまく仕分けできるのではないですか。人の感じた壁をどうこう言うのはやりにくいです。

小林：壁を出した人は自分の紙がわかっていると思うので、積極的に言ってもらいたいのが一番ありがたいのですが、陰徳の美で言うのが恥ずかしいという人もいるかもしれないので、それを強制する事はできません。自分の紙に積極的に発言していただくとスムーズに進むのですが……。

会員：B-1の「単年度制から複数年度制」に関連してですが、要は町内会長、副町内会長等が全て一年で入れ変わってしまう。そういったことから皆不平等を感じ、新しい事は辞めようという状況が実態です。私は「区費の不平等」について書きました「区費の不平等」をなくすためには、要は市と連携を保っていかないと平等な区費は設定できないと思います。こういったこともやっていかないと、町内会の役員のなり手がいないんじゃないかと、そういう思いが強いです。

小林：町内会等の関係で言うと色々仕組みの問題は他にもありそうですね。その辺もどんどん出して頂きましょうか。ここに出てないけど思いついたというものがあればそれも出して頂いて構いません。

住民同士の問題で言うと今、「単年度制から複数年度制」ということで、これは区の問題という事でさっき言ってもらいました。それから先ほど「経費をかけないで多数の参加者をどうやって集めるか」は、民間で何かやっていくときの仕組みとして課題があるのではないかと、言ってもらいました。それから地域住民同士の間でも壁があるのではないかと、とも言ってもらいました。

他の方はどうですか。

岩崎：せっかくグループで集まって頂いてるので、一度グループの中で検討してもらいましょうか。これ壁なんじゃないの、と思いついたものも是非ご発言いただきたい。10分ほど時間取りますので、皆さんで話し合ってみて下さい。

小林：約束の時間になりました。議論白熱しているところもあるようですね。さっき指摘があったように自分の書いた紙については色々主張があるでしょうから、その辺から伺っていきたいと思います。さきほど発言のなかったグループから発言を頂きたいと思います。

会員：私は「当事者意識の欠如」は全体にかかる意識の話だと思います。

小林：住民同士の中でも役所関係でもあるという事ですね。一個だけでいいですか。

会員：例えば全体の仕組みのほうからいきますが、A-1「組織」と「ルール」が入るんじゃないかと。住民同士のところに「個人情報」というのもありましたが、これも全体に入ると思います。A-2は「利己主義」と「自分勝手」

小林：住民同士だけではなくて、役所の中にも「自分勝手」や「利己主義」があるということですか……。確認しないとイケませんね。

会員：「働く」というのはどういう事」という投げ掛けは全体の意識のところだと思います。「利益がなければやらない」というのは具体的に行動を起こそうとする時にそういう思いじゃないかなと。「役員意識の壁」は恐らく地区の役員の皆さんの壁かなと、B-2です。続きましてC-1ですが「書類の提出」職員と住民との間で書類の負担を少なくできるのかなと。「数合わせ」ですが、イベントの中で数合わせ的なものがあるのではないかと。「継続性・メンバーが変わると考えが変わる」これもC-1。あと「人と人との関わり」もC-1。あと「行政と接点がない人もいる」行政との触れ合いがないと言うのは仕組みの問題かなと。続いて「結果の報告がない」ですが役所の事業の中で、計画段階で市民が参加している事業も、実施後の報告が市民にないということで、これも仕組みの問題です。続きましてC-2。「職員は仕事なんですよ、とイベントなどで言われる」

小林：イベントなんかでそういわれるのは、これも意識の問題ですね。

会員：あと「出席してもらおうの事の大切さ」

小林：これも意識の問題ですね。要は出席がないって言うものですか。

会員：続いて「行事を行うのに年齢層の違う人をまとめるには」。色々価値があるのでそれぞれの役割が大切です。

小林：これもまあ、意識の問題ですね。

会員：あと「行政がやらないと始まらないと考える人がいる」

小林：まずは行政がやらないと始まらないと言う意識がある。

会員：あと「職員と分かると役割が増える事が多い」。

小林：要するに住民の側から役割をいっぱい職員に振られてくる。

会員：あと「行政との壁」

小林：とりあえずこのチームに全部しゃべって頂きますので、多分これに皆さんからダメだしがあると思うので、後でどんどん叩いてあげましょう。

会員：D-1ですが「各課との横のつながり」役所内部での繋がりが弱いかなと。続きまして、D-2最後になります「市職員のボランティア」市職員としての意識の問題でしょう。すいませんたどたどしいですがこれでよかったですでしょうか。

小林：これは多分相当異論が出るでしょうね。どうですか、うちのチームではこれはあっちだったとかあるのではないかなと思うんですが、どんどん積極的に出してください。

どうですか。

会員：かなりは一致しますね。

小林：でもちょっと違った分はありますよね。

会員：A-2の「利己主義」は住民同士に入れてほしい。

小林：役所はこんな事はないと。

会員：ないです。

小林：そうとう強い自信をお持ちですね。

会員：私が書いたのですが「人・人間関係」いまC-1にあるんですが、私の意思じゃありません。私はA-2の意識の問題だと思っていますので、そちらに入れてください。

小林：そういうこともあると思いますよ。

会員：「行政との壁」がC-2に入っていますが、わたしはC-1だと思います。

小林：もう仕組み的な問題がある。もう少し具体的に言うとどんなところに問題がありますか。

会員：具体的にはすぐに思い浮かびませんが・・・

小林：言い出したらキリがない？

会員：そうですね。はい。

小林：どうですか。ちょっと例を出してくれたらありがたかったですけど。おいおい伺いましょう。「行政との壁」って言うのは実は仕組みだと言うご発言でした。あとは異論はないですか。

会員：C-1の「継続性・メンバーが変わると考えが変わる」ということですが、住民と役所でこういう会議だけではなく、例えば住民同士、町内会の役員であるとか役所の内部でも人事異動があったりすると多少考え方が変わってくるという事があるので、全体の仕組みということにしたほうがいいと思いました。

小林：実はこれ私が書いたんですけど、といえる方……。

会員：まず、うちのチームではC-1だという結論です。というのは役所のほうも住民の皆さんにやって頂いた方がありがたい。そこで住民の皆さんのメンバーが変わってしまうと次の年やらしてもらえなくなると困る。というのと、あと役所のほうとしてもやっていただく限りはずっとやって頂きたいので、期待してしまっている。それを継続してやっていただく仕組みがあると、約束してもらえるとというのが一番ありがたいので、C-1かなと思って書きました。

小林：役所と住民が何かをやろうとした時に、多分お互いでしょうね。住民の側も継続されずにコロコロ変わっていったら、あれ？去年こんな話をしていたのとなりません。逆に住民の方からすると役所の担当が替わったら話がぜんぜん違うというのもあるし。ということですね。こうやって話を聞いていくと同じ言葉を使って喋っていても、実はそういう考え方もあるのかというのがありますね。これを皆で繰り返す事で我々全

体の課題はなんだろうというのが、お互い理解を深めていけたらと思います。もう少しこの作業を続けたいと思います。

会員：本来の区の運営のあり方とはということでC-1。

小林：住民同士だけではなくて役所の関係ですか。BじゃなくてC？

会員：役所と住民との関係で、本来の区……。

小林：なるほど。そこに役所が係ってくる事に問題があるのかもしれないですね。

会員：連絡委員の委嘱として情報提供の手段に過ぎないではないかもC-1。区の独自性のため区民の参画意識向上はC-1。

小林：これは役所が区にどう係わってくるかと言う事に問題があるのだと、仕組みだという思いですか。

他の方どうですか。新しいカードを作ることもできます。区の問題についても、実は区の問題と言うのは役所と住民との係わり方のところに一番問題があるという話でしたが、一方では区の話は住民同士の内部での問題でもあるという話でもありましたので、別の観点から新しいカードを提案しますというのがあればどんどん仰ってくださいね。

会員：新しいカードですが外国人住民との共生という言葉でC-1に。意識かなと思うんですが意識だけでは調整できないので。団塊の世代の義務場合によっては市の条例にして強制的に、そのことを含めてC-1。もう一点ですね高齢者との共生老人ホームとか作るのではなくて、そういった人達を使ってもっと全国に発信できるものができればよいと思います。

小林：これは世代間との事ですかね。そうじゃなくて高齢者……。

会員：高齢者。グループで討議して出てきたのですが、皆様のご意見があれば。

小林：色々と仕組みで役所と住民とに係わる話は大分出てきていますけど…

会員：友愛と民生委員の活動というカードを出したんですが、受け皿はひとつの気がするのです。情報発信が別々。民生委員が役所の関係。友愛が私老人クラブです。しかし、同じ活動をしている。同じ家に違った人がくる。受けるほうはそんなことしないでいいという息子さんもいます。この辺が非常に難しく、これが住民と役所の関係か、情報の関係かどちらになるのか……。

小林：そうすると仕組みとして役所の側の民生委員の活動と、住民のやっている老人クラブの活動と両方の間でうまく連携がとれていない。

会員：官から民へといのはやっぱりC-1に是非入れてください。

会員：市民となるために平等に役割を受ける意識作りですがB-2にいれようと思ったのですが、継続性の話に引っ付けておいたほうがいいかなという感じですね。メンバーが変わるとやりにくいというのは、私達とはまったく逆の話になる。継続性ではなく平等にやる仕組みを作ってほしいと思っています。市の側としては利便性を考えてい

るのだと思いますが、これを聞くと立場が違うと考え方もまったく逆になるのだと、市民と行政とのやり方というのは意識がまったく違うのだなという事がわかりました。

小林：おそらく人が変わって活動方針がころころ変わると困るということを仰っていたんだと思います。人は変わってもいいのだけど、その度に中身が変わると付き合いにくいということですね。人が変わっても活動は継続できるという折り合えるところを探していきましょう。

会員：同じ人がやっているとありがたい面もあるのですが、逆に受け取られるほうもあまり同じ人が長くやっておられると変わりにくいという問題もある。あまりにも引き継がれると困るという面もあると思う。

小林：同じ人がやり続けていると他の人が入りにくくなるという事もあるかもしれませんね。

会員：先ほどと関連すると思うのですが「若者が後継者として育てていない」我々は時間が有ってできるけど、若い人は仕事とかに制約されてなかなか入り込めない。だからずっと同じ人が役員だったり指導者だったりする。これと同じ事で地域でも若い人が任されることは少ない。もっと若い人を育てたり参画できるような仕組みがいるということでA-1かB-1。今はB-1と思います。

小林：住民の皆さんが色んな活動をしていく上で若者が参加しやすいような仕組みを作っていこうということですね。

会員：「一部の人の自己主張」ということで、役所と住民との中の事でもあることだし、住民同士でもあるし、ということでA-2に入れてください。それから「経済の裏付け」ですが、裏付けがないと動けないのもあるし、それは住民同士と役所の関係じゃなくしても住民同士のなかでも自分達でやりくりをして考えるべきこともあるので、C-2……。

小林：仕組みはいらない？

会員：両方入れたいぐらいです。

小林：なんだか誘導しちゃいましたね。両方に入れておきましょう。

会員：「戸数が減少し部長・班長が限られてしまう」は仕組み的なものではないかと、B-1かなと思っていたのですが、「隣同士の繋がりが薄れてきているようだ」これはB-2かなと。

「受身」というのも分かんないですけど、これもB-2なのか全体のものなのかということで、A-2との真ん中ぐらいかなと。B-1とB-2はグループで話していたのですが、住民同士の問題なのか住民と役所の問題なのかは非常に不鮮明なので、単純に分けてしまっていていいのかということに疑問が残っています。

小林：今日は皆さんに整理して考えてもらうために、ある程度無理やり分けてもらっているところもあるので、どちらか曖昧というのも当然出てくると思います。今まさに協働の仕組みを考えようということになると、役所が考えているわけではない。そうい

う意味では全部住民と役所ということになるのです。役所が考えて、住民の皆さんこういうやり方どうですかというのが出てくれば、どっちなんだろうねというのが当然出てくると思います。今後おいおい住民の問題だと思っても、いや役所がそこに働きかけないとうまくいかない部分があるというのも出てくるでしょうし、課題がある程度固まった段階で皆さんで議論できればと思います。

会員：自分自身の壁これはですね自分自身を見つめなおすということを出しました。これは一人の人間として全部知っているわけではない、知らない事もいっぱいあるということで、地域住民も市役所も一個人としてそういった意味合いですので、A-1ですかね。

小林：それぞれが自分自身を見つめなおそうと。

会員：小学校での生活力教育が不足これはC-1にして頂きたいと思います。

小林：学校でやっている事けれども、別に学校だけじゃなくて住民の問題でもある。こうやって見てみるとやっぱり住民と役所との間のところに大きな壁が一番あるのかなという気もします。

会員：まちづくりコーディネーターの不在これはまちづくりというのは住民同士の問題ですが、コーディネーターとなると役所からのお墨付きみたいなものが必要かと。ということでB-1よりもC-1かなと。それともう1つは道路拡幅工事の頓挫これは表現が適当じゃなかったかもしれませんが、要するに市と県の壁ということで、県道を市はどうする事もできないという意味です。でD-1。

小林：役所内部というより役所同士の仕組みですね。

会員：B-2の利益がなければやらないと考えるですが負担感と恩恵〇負担×と同じ括りとして考えると、意識と考えるとそうですが、仕組みで負担感が無くせないかな、という考えでB-1じゃないかなと。

小林：そうですね。意識の問題のように聞こえるけど、負担に感じることもある。でもその負担感をどうやって減らす事が出来るだろうか。うまい事平等にまわしていけばいいじゃないかとか、仕組みの問題ではないかというのはいいご指摘ですね。こういう仕組みをここで考えていけると、へきなんの協働を考える会はすごいとみんなに思ってもらえるかもしれない。

他どうですか。皆の思いは出尽くしましたか。

まだ売れ残っているカードがありますが、皆さんの思いとして特にたくさんあげて頂いたところで言うと、住民と役所の間の話が多かったですね。順に見ていきましょう。まずC-1ですね。住民と役所の間で見ると行政として画一的にならざるを得ない対応・手続きがあるという話がありました。書類の提出とか数あわせとかもそういう部分の話かもしれません。それから区の問題として本来の区運営のあり方とか連絡員の委嘱というだけになっているのではないかな。そういう区に対する行政のかかわり方に

問題をあげていただいた方もいらっしゃいます。さらに個別の世代の話でいうと「団塊の世代の義務」とか「外国人住民との共生」とか、あるいは「高齢者との共生」みたいなことも不足しているのではないかという事です。それも仕組みとして考えられないだろうか。もしかすると「小学生の生活力教育不足」みたいなこともそこに関係しているのかもしれませんが。それから個別ばらばらという意味で言うと、老人クラブのやっている友愛活動と、行政に委嘱されている民生委員活動とが、全く同じような対象に向けてそれぞれ別にアプローチしている。そういう話も出てきました。それから行政と住民との話の中に「行政とは接点がない人もいる」そこも行政が住民とうまく関わっていくというところの意識の問題じゃないかという話を頂きました。あとは大きなテーマで言うと「官から民へ」なんでも民間で出来る事を民間に任せて何が悪いっていうわけにもいかないかなと。これは住民と役所との間の仕組みに関係するところですね。役所の中だけの仕組みでいうと「消化行事」のようなことや、「各課の横のつながり」がないなどがあります。それと県と市の間で道路の問題とか、行政間も問題があると。住民同士ではどうかというと、住民の中での壁があるとか、住民の中での不公平感とか「負担感」とかっていう話がありました。区の運営をして行こうと思っても「戸数の減少」とか「単年度制」では活動が続かないとか。それから「後継者が育たない」育たないのか育てられてないのか、そういう部分も仕組みとして問題がある。全体について言うと、それらを全部ひっくるめてなんでしょけれど「ルール」をどうするっていう話、まさにそのルールをこの会で作ってもいいですよ。協働のあり方をどう考えていくのかという時に、碧南ではこういうルールが必要、こういうルールで皆な協働していこうというのをこの会として提案できるのであれば、それもひとつのこの会の向かう方向だろうと思います。あるいは組織の問題、情報の問題もあるという話もありました。今私がお話したのは全部仕組みの話ですが、先ほど良い指摘を頂きました。実は仕組みじゃなくて意識の問題のように思われているものでも、例えば「負担感」のようなものは、気持ちの問題としての負担は、仕組みが整えば解消できるかもしれない。それは「経済の裏付け」とかもそういう話かもしれないですね。それから「行政との壁」というのは両方に関わっていただけれども壁を意識として感じるだけではなくて、それは実際に何か仕組みの問題があるのかもしれない。意識の問題は中々解決するのは難しいことは最初に申し上げましたけども、でも意識の問題でも仕組みが整えば解決できる事もあるのかもしれない。これからそういうところを皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

今後の進め方ですが、今日こういう形で皆さんに挙げて頂いた、へきなんで協働を考えるとときにぶち当たる壁ってなんだろう、それを仕組みと意識の問題に分けて考えて見よう、さらに全体にかかる問題なのか住民同士なのか、あるいは住民と役所との間の問題なのか、これが一番多かったですね、それとも役所内部の問題、意外と役所内部には協働って言う意味では問題はないという結果でした。それは役所の人はずう思うでしょ

うけど、市民の人は心優しいのだなと思いましたけど。今後どうするかですが、挙げてきた課題をある程度整理をしました。まだ不十分なところもありますが。そうするとこれは課題ですから、解決しないとイケません。これをどういう風な解決策があるだろうかということ、これを本格的に考えていくのは多分来年度のテーマになると思います。来年度はいくつかのチーム・班に分かれて、この課題を中心に扱おう、うちのチームは別のこれを扱おう、とそういうふうに分かれて分科会的にやっていった方が効率がいいと思います。次回は、どのような課題を特に掘り下げていったら良いか、ここの部分だったらこんな解決策が考えられそう。ここの仕組みなら皆で考えられそう。というのを次回挙げてもらうといいと思います。今日まとめたものは皆さんに後日お届けできると思いますので、それを見ながら皆さんで解決策を考えてもらえたらと思います。

岩崎：今皆さんのお話で8つのマトリックスに再度分類していただきました。そしていくつか新しい項目もでてきました。いま小林先生から説明したように特にA-1からD-1の部分に関して課題がある程度見えてきたのではないかと思います。ただ議論がありましたけど、これは住民と役所の関係なのか、それとも住民同士の関係なのかというのももう少し考えていかなければならないものもありました。あるいは全体というものも考えていかなければなりません。次回までに私たちとしても、ここからどんな課題が見えてくのか内部で検討して見たいと思いますし、皆さんも課題って言うものを言葉で表すとどういうものなのか、解決するのにどうすれば良いのかと言うのを次回までにお考え頂きたいと思います。

2回ほど皆さんで作って頂くワークショップをやってきました。感想をまた聞きたいと思うのですが、これってすごい事なのです。たまたまここに集まった何のつながりもない人達が、議論をして私たちはそれを整理するお手伝いをさせて頂いただけで、大体2回である程度のところまで来ているわけです。何にもないところからある程度課題が見えてくるところまで来たということ。最終的にはルールを作るのか組織を作るのか、それを皆さんに議論していかなければならないのですが、まさに無から有を作っているじゃありませんかっていうのを今日の最後の言葉とさせて頂きたいと思います。長時間お付き合い頂きありがとうございました。

4 その他事務連絡

- (1) 来年度の会議開催日程について（毎月第2水曜19時～を予定）

第4回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年3月16日 19:00～

場所 市役所2階 談話室

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（35名中30名）

（団体選出） 板倉通文、河原克人、中根堅太郎、小野洋雄、神谷賢司、

竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 林田要、須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、

杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫、

長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 地域協働課長 山田忍、協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀島

政司、協働推進係 野澤武司

傍聴者 1名

会議内容

1 市民憲章唱和

2 会長あいさつ

今日西端の方を走っていたらあるお宅で枝垂れ桜が満開になっていました。市内を走っているとあちらこちらで種類の違う桜が咲いていて、桜の季節だなと思いました。

第4回という事でそろそろ準備ばかりではなく具体的なディスカッションがしたいと思っているかもしれませんが、ようやくそんなタイミングになってきました。せっかくお集まり頂いたので中身のあるディスカッションを是非積極的にして頂きたいと思います。

それと35人のメンバー全員がお互い知り合っていた方がよいと思いますので、一度4月5日の夜に懇親会を開きたいと思います。よろしくお願いします。

3 議題

課題のまとめ

岩崎：この会は役所の仕事なので3月末で1つの区切りになります。さきほど会長の御挨拶の中でもそろそろ本格的な議論をしたいというお話がありました。私たちも本格的に碧南の協働を考え、そして協働を進めるためには具体的にどのような事を考えていったら良いのかという議論をしたいと、皆さん以上にうずうずしているところです。ただその時2つ重要な

事があるように思います。

1つは今の碧南の現状で解決しなければいけない事がどのくらいあるのか、どのような範囲に存在しているのか。これをメンバーで共有しなければいけないという事です。ですから皆さんには壁の話を自由に出して頂き、そしてそれを仕組みに起因するものなのか、意識に起因するものなのかを分けて頂きました。今日はもう一度この8つのマスに分けた状態のもので良いのかという確認をしなければいけません。そしてそれを踏まえて議論して頂こうと思います。壁を課題としてまとめ直したペーパーを用意しましたので、これを使って今日で課題を共有する作業を終わりにしたいと思っています。

もう1つは、こういう小グループに分かれてグループで意見を出すという機会は今日で区切りにしたいという事です。次はもう少し大きいグループで私たちが中に入る形で議論を進めていこうと思います。つまりそこは課題を中心に、課題を解決するための仕組みを具体的に考えていく事になります。そういう事を4月5日に懇親会をして仲良くなってからやっていきたいと思っています。実は5~6人でやるというのはこの時の準備でもあったのです。30人でやると一人が何回も発言するわけにはいきませんし、1~2分では言い足りないことが多いでてくると思います。ところが5~6人でやると色々言う事ができます。今何を議論しているのか、それを活発化させるためにはどういう言い方をすればいいのか、逆にこういう事は言ってはいけないのかもしれないとか、そういった議論の仕方を第3回で学んで頂けたかと思っています。10人ぐらいで具体的な仕組みを考えていく時もこの経験を活かして頂きたいと思っています。それと、具体的な仕組みは碧南にはまだ何もありませんから議論は難しくなると思います。だから私たちがどれだけ力になれるか分かりませんが、ファシリテーターとして入らせて頂こうと思っています。

へきなんの協働を考える会は、発足の時は何をどうやるのかさっぱり分からなかった筈です。それが皆さんに意見を出して頂く事により、このような課題が出てきたのです。それを今日もう少しまとめていこうと思います。このやり方というのは無から有を生み出して行く様なステップですから、分かり難いところもあるかもしれません。

今日の進め方として、最初に振り返りをおねて8つに分けたものがこれで良いのかという確認をします。それとペーパーの下に課題として整理してみたところに抜けがないかの確認。そして松井真理子の方から協働というものをどう考えていけば良いのかという事について、先生なりの考えをレクチャーして頂きたいと思っています。その後この課題の部分について皆さんにグループワークして頂きたいと思っています。

それでは前回の振り返りです。前回は皆さんから出して頂いた壁の事柄を、全体・住民同士・住民と役所・役所内部、それと意識に起因するの仕組みに起因するののか、という大きな8つの分け方で分類するという作業をしました。これについて後から考えたらこれはここに入れた方が良いのではないのかとか、そういうふうに考えている部分が有れば是非言って頂きたい。それと、この下にあるものはこれらを捨ててしまうという訳ではありません。何か

抜けがないかという確認ですがいかがですか。何もありませんか。(会員からの意見がないことを確認)

ではそもそもこれから議論していかなければいけない、この会の目的でもある協働というものをどう考えれば良いのかという事を松井先生からお話頂きます。

松井先生の話～協働の考え方～

松井：協働とは何か。まだその話し合いも十分に出来ていません。実は協働という言葉にはきちんとした定義は無く、まちまちなところがあります。各自治体でこういう考え方の協働でいこうとか、自由にやっていると一般的に捉えられています。ですからへきなんの協働をどう取り組んでいくのかというのは、私達と皆さんとで一緒に作っていったらいいという自由さがあります。この会には役所の人も団体の人も、市民の人もいます。そういう事から考えてペーパーを見ると大きく分けて住民と役所の2つがあり、そしてそれらが重なり合っている部分の関係が表れてきているのが分かります。

協働というのは協力して働くと書きます。では誰と誰が協力して働くのか。他にも協同や共同という言葉がありますが、この会は協働を考える会です。力を合わせて何かを生み出す、という非常に前向きな思いが文字に込められています。これからしっかり議論していけば良いのですが、住民にも色々ありますし個人も様々です。高齢者もいれば若い人も外国人もいますし、性別の違いもあります。それぞれ一人一人考え方が違います。どれが一番という事はありません。人権の分野では「みんな違って、みんないい」と教えます。

日本には独特かつ非常に意義のある仕組みがありまして、全国では自治会や町内会と言いますがこちらでは区とっていますね。いわゆる住民組織というものですが日本はこれが活発です。隣同士の絆というのが基本にあって、それを基にした組織というのがある。それから老人クラブや婦人会といった分野別の組織がある。NPOやボランティアグループなど同じ目的を持った者が集まる組織もあります。このように住民の中にも多種多様なグループがあります。役所の人も多様で一人一人違うのでしょけれど、住民からは役所は一つに見えるのです。協働というのは違うものが一緒になって何か新しいものを生み出すという事ですが、住民同士の関係で協働するというのも一つあります。ですがペーパーを見てみると一番大きい領域は住民と役所が一緒になって何かをやるという部分ですね。これは今の時代の流れでもあります。

話は変わりますが、認知症サポーターというのをご存知でしょうか。難しいものではなくて1時間30分ぐらい話を聞くと誰でもなれます。私も認知症サポーターです。なぜ認知症サポーターをやっているのかというと、これは地域の中で高齢者の方が増えて認知症の人も増えてきたからです。地域の中に認知症サポーターの方が多いと高齢者にとっては安心ですよ。もちろん高齢者が安心して暮らしていくにはそれだけではなくて施設が必要です。施設を作るのに税金も必要です。ですから私たちが高齢化社会の中で安心して暮らしていこう

と思ったら、役所の方でしっかりとした仕組みを作ってもらわないといけないのです。さらにそれだけではなく、地域の中で住民一人一人が出来る事をやっていくのも大事です。役所がやる事は制度や仕組みといった根幹の部分をしっかり作る事です。住民がやる事は身近なところで助け合う事です。これは役所が出来る事ではありません。本当にかゆいところに手が届くのは一番身近にいる人達です。私たちが安心して暮らそうとしたら役所は絶対必要です。でも役所だけで全てをカバーできるわけではありません。お互いが重要性を認識して助け合う事が必要なのです。

最近新しい公共という言葉がマスコミでも多く見られるようになりました。碧南の市役所は大変立派な方が多いから、ほぼもれなくいい政策を作ってくれるという期待はありますが、役所が何もかも出来るわけでは無いという事も分かってきました。役所にも限界があるので、だから一緒にやった方がいいのです。協働することで幸せな暮らしができていく。私たちが作るべき幸せがあって、それは私たちにしか作れないものです。言うのは簡単ですが、その為の仕組みが何もできていません。今乗り越えるべき壁がこれだけあるのです。役所の意識のずれ、住民との意識のずれ、どうもやっている事の感覚がずれているようです。このずれはどのように生まれるのか、どうすれば埋まるのかというのは誰もが考える事です。愛知県でも、私の住んでいる四日市市でも、外国でも同じ事を考えています。市民の求めている、意味のある、目的不明じゃない、有効活用できる、そういうものをどう作っていくかをこれから考えていくという事になります。

松井先生への質問

岩崎：協働をどう考えていけば良いのかという松井先生なりの考えをお話して頂きました。最初に言いましたように協働という言葉に定義があるわけではありません。碧南なりの協働を考えればいい訳です。強いて言うなら協働とは違うものが協力して何かを生み出すことで、目的ではなく住民も役所も両方が幸せな社会を生み出すための手段です。

住民同士もそれぞれ違うし、役所の中もそれぞれ違う。でも住民から見ると役所は一つに見える。だからCの部分に課題が集中しているという解説をして頂きました。次に行く前に松井先生に質問はありますか。

会員：大変分かりやすく貴重な話をありがとうございます。協働の目的が各々の幸せを広げる事というのなら、ある人が幸せを掴む為に、ある人の幸せを壊すという可能性は考えられないでしょうか。

松井：幸せには個人差があります。一人で生きたいという高齢者もいますし、災害が起こっても逃げずに一人で頑張るんだという人もいます。そういう人をどうするのかという問題は確かにありますが、それは地域で話し合って解決する事です。仰っている事は権利や人権の話だと思いますが、幸せの条件というのはこれも皆で決める事です。この条件を皆で話し合って決めていく事が大事だと思います。

会員：だんだん議論すべき中身が見えてきましたが、今出ている課題を見ても碧南らしさが出ているのかなという疑問を感じます。碧南らしさを皆で再認識しておかなければいけないと思うのですが。

松井：碧南らしさを皆さんがどう反映させたいのか、という確認作業が必要になってきますね。これから話し合っていきましょう。

会員：役所が作る仕組みというのは、高レベルでも低レベルでもないみんな拾う事ができるセーフティネットで、区とか絆とかの発展が身近なところで出来るセーフティネットなのかなと思っています。そのせめぎ合いがこの図になっているのかなという認識なのですが、間違いではないでしょうか。

岩崎：そういう考え方も絶対あると思います。私たちは幸せな社会を作る為に協働を手段にしていますが、何を目的にしているのかという一番初めに出てくるのが安全安心です。市役所で提供できる安全安心もあるし、ご近所の底力で達成できる安全安心もある。それをやっていこうとしている時に制度上無理な事なら制度を変えればいい。しかし住民が制度を変える事は出来ない。だったら市役所がそう動けるようにどんな仕組みを作っていけばいいのか。こういう視点は協働の仕組みを考える上で非常に有力だと思います。グループワークでもこういう考え方を活かして欲しいと思います。

松井：地震や津波などの災害時は市のホームページなどの災害情報はありがたいですし、頼りになりますよね。だけど実際に何かあった時に地域の高齢者や一人暮らしの方を一軒ずつ回るのは役所では難しい。お隣の人をパッと助けられるのは市民なのです。でも地域の絆が薄れてきて、自主防災活動も落ち込んできた。ではどうすれば良いのかという事を住民と役所でうまくマッチングしていけばいい。それが協働だと思います。

グループワーク

岩崎：ではグループで議論して頂きたいのですが、まずは手元のペーパーに書いてある課題が十分であるかどうか確認して頂きたい。それと住民と役所との課題が非常に多く出ていますけど、これを分ける時にはPDCAを使いたいと思います。Pはプラン、計画を作るという事。Dはデュー、何かをする時。Cはチェック、検証する事。Aはアクション、それをもう一度計画に反映させていく事。行政の仕事はこう流れていくべきだと言われています。これが出来ていないからこそ、年末の事業仕分けというのは見ていておもしろかった訳です。PD、PD、で計画を作ってはやりっぱなし。また計画を作ってはやりっぱなし。そこで始めてCをやったから見せ物としておもしろかったのです。住民と役所との間での課題というのは多くでていますので課題の頭にPDCというマークを付けてさらに分類させて頂きました。そしてそれぞれの場面でどんな課題が考えられるのかという事をグループの中で検討して頂きたいと思います。それを後で発表してもらって課題リストとしてまとめたいと思います。

その中で先ほどお話にありました碧南らしさというのにも出てくる部分があると思います。ただ、私はこの壁のありようこそ碧南らしさだと思います。抽象化していくと碧南らしさが失われていく部分もありますが、これを基に作っていくのだから徹頭徹尾碧南らしさは表れて来る事になると思います。四月以降10人ぐらいのグループで私たちが具体的にファシリテートさせて頂く時には、我々は唯一碧南市民じゃないわけですから、碧南らしさというのはより良く感じられると思います。協働の具体的な仕組みを考えるとときには、私たちはそれを専門に勉強しているものですから、皆様方に力添えできる部分もあると思います。

それと碧南らしさを努めて出そうと思わなくても良いような気がします。今出ている壁全部が碧南らしさですので、この壁を崩す仕組みを考えていく時に碧南らしさは自然と出てくると思います。

では20分間ほどグループの中で話し合っ頂きたいと思います。

岩崎: それでは20分経ちましたので、皆さんが議論した内容を報告して頂きたいと思います。内容は小林先生がホワイトボードにまとめていきます。

会員: 私たちは住民同士の課題のところにスポットを当てて議論しました。区の活動や区費といったところの課題ですが、これは住民というよりは大きな組織になっているので、もっと小さいところに問題があるのではないかという話になりました。何かあればすぐ区に頼るかどうか、区で無理ならば市役所に頼る。これをやめて、まず住民が自ら出来ることは自らやる、自助という部分。それで出来なければ家族や親戚、近隣住民や区でやる、共助という部分。それでも出来なければやっと市役所の役目になってくる、公助の部分です。

問題提起としては、意識の中で自助・共助・公助の認識が不足しているのではないかという事です。まずここからスタートしないと、仕組みを作っても「やらされている感」などの問題が出てくる事になる。ですから意識の部分での認識不足を課題として取り上げてはどうかと思います。

岩崎: 住民同士の課題で、まずやらなくてはならないのはこの意識不足を解消する事だというお話ですね。他に住民同士の課題に焦点を当てて議論したグループはありますか。

会員: 私たちの小さい頃は絆というのが強過ぎるほどあった。年寄りの意見かもしれませんが、今は絆が足りないと思う。区の行事をやるにしても参画する自発性が全く無い。孤立化が進んでいる世間の中で繋がりを持とうというのは大変な逆風で難しいですが、お茶の世界には形に入って心に至るという言葉があります。従って町内会などの活動については参加を義務とまではいかないまでも、不参加は罰金など制度化した方が良いのではないのでしょうか。

岩崎: その視点は大切だと思います。先ほど松井先生も仰いましたが、一人で暮らしていて有事の際にも助けは要らないという人もいる事は確かです。でもその人に助けをしなくて良いのかと問われるとちょっと辛い話になります。そういう人がいる事もふまえると、町内会の参加の制度化で解決できるのかという事を検討していかなければいけないでしょうね。

会員：私も自発性の話になります。自宅の前に草がボーボーの歩道があるのですが、ある日高校生がその草に絡まって自転車で転んだのです。これは草を刈らなければと思って草刈を始めたのですが、何年か続けていたら誰かが連絡してくれたのか行政がやってくれるようになりました。でも何年もやっていたけど私もやると言ってきた住民は一人もいませんでした。役所に頼めばいいのって言う人だけだった。草が生えていたら刈ろうとか、やっている人を見たら自分もやろうとか、一人一人がそう思える芽を出さなければいけないと思う。それができると育てる事も出来るし、地域に広がっていくと思う。まず芽がないと育てる事も出来ない。市役所も住民の行事を組むときにどうすれば芽を出させられるかを考えるべきだと思う。

岩崎：どうしたら芽を出させることができるか。これは地域の課題の発見能力という話なのかもしれないですね。

会員：今までの話とはまったく違う話ですが、我々は市役所の仕組み・基準と、住民との間の壁について話しました。役所は住民の為にあるのですが、住民がお願いに行っても基準外だと断られる。地域的にも経済的にも違う、自分の立場で話を持っていくと市役所の基準に合わない事もでてくる。その時に基準を直そうとして役所の中の誰が実際に動くのかが問題じゃないかという話をしました。先を見ている部長・課長なら敏感に動いてくれると思います。山田課長みたいないい人ばかりなら良いのですが、行政はそういうところから逃げている。

この前空き店舗対策でお金を出すから誰かやって下さいという話があったのですが、住民は要らないと言いました。他にもまちかどサロンを作ろうとしたら、区民館や公民館があるから要らないと住民が言った事がありました。こういうふうに仕組みを作る人が良かれと思ってやった事が、住民のニーズとずれている事がある。

我々の結論はPのところに「多くの人の意見を取り入れた企画が出来ない」という事が課題だという事です。

岩崎：地域も年齢も様々な住民に対して役所のやり方が一律だという問題ですね。中立公平に過不足無くサービスを提供するのが役所の役割ですから、ある人にとっては物足りなかったり、またある人にとっては十分過ぎるものであったり。これはある意味役所の宿命でもありますよね。公平性を重んじればそうなるのですが、これからもこのままで良いのでしょうか。新しい基準が必要ならどうやってそれを作るのかという仕組みは考えられるかもしれませんね。

プランに多くの人の意見が反映できていないのではないかという提起でしたが、逆に多くの人の意見を反映していくと、どんどんそのプランが悪くなっていく可能性もあります。そこをどう加減していくかというのも大きな課題ですね。

会員：防災のボランティアには平等中の不平等というのがあります。確かに行政は皆平等に平均して面倒を見てくださいますが、平均値の人というのはなかなかいません。阪神大震災の時、

役所は全部揃わないと皆さんに配る事が出来なかった。だから行政は遅いと言われた。でもボランティアは身近な人から助けていったので、結果的に短時間で多く動く事ができた。

協働にもやれる地域とやれない地域が出てくるかもしれない。でもそれを全部出来るようになるまで待っていたら何時まで経っても出来ない。だからある程度出来るようになったら出来るところからやっていくという事も大事ではないかと思います。

岩崎：やれるところから支援していく仕組みというのは、行政の今までのやり方とは全然違う事を考えていく事になりますね。これも大きな課題だと思います。

会員：「官から民へ」という壁を提案したのは私です。どういう意図があったのかというと、お役所というのは前例主義ですよ。その中に絡んで一年だけの役職であれこれ提案してもそれはもう決まっているとされるだけなのです。それじゃ来年からやりましょうと言われても役員がもう変わっている訳です。

例えば公民館は役所と住民が一番近い活動拠点なので行事などをもっと工夫して色々やったらどうか、と館長に提案してもまた来年と言われる。思ったときにやらないと何も変わらない。来年の事業計画も決めてしまっているが、実際にやるのは来年の役員です。だからトップを役所の人じゃなくて民間の人にしてはどうか。優秀な人で年間150万円の給料でも喜んでやる人はいくらでもいる。そうすればもっとダイナミックな公民館の運営ができるのじゃないかと思います。前例主義というのを打ち破らないと何も変わらないと思います。

岩崎：すごく具体的な話で一つの解決策みたいなものも出てきましたね。

会員：碧南市で分別ごみが始まった時NHKで宣伝されて非常に有名になった。その時は良かったのですが、今私も月2回分別ごみを持って行きますがごみを分別する事に集中してなぜ分別するのかがどこかにいってしまった。ごみが落ちていても知らんぷりする人もいる。当初の目的が分からなくなっているし、効果の確認も出来ていない。もう一度何の為にやるのか、これからどうしていくのか、というPDCAが回っていないのが問題だと思う。この辺の仕掛けを役所の方がやってくれると良いのではないかと思います。

あと皆さんがやったことはこんなに効果がありますと広報で宣伝したりして頂けると住民にもやる気が起こる。良い事をほめる上司と、悪い事を指摘するだけの上司とでは伸びが違う。役所と住民との関係にも当てはまる事だと思います。

岩崎：褒めて育てるというのも大事ですし、何の為にやっているのかを見失わないように確認する仕組みも必要だという提案でした。課題を越えて、それを解決する具体的な仕組みを提案して頂くところまで来ましたね。

会員：インターネットで協働について調べていたら岐阜県の各務ヶ原が国際的な賞を受賞したと書いてあった。他にも三重県の鳥羽市がうまく協働しているという事が分かった。この会で話した事は具体化した事をまた抽象化したような、良く分からない面があるので、そういった成功例を何箇所か見学するとイメージが湧いて良いかもしれない。

岩崎：議論がまとまってからならやってもいいかもしれませんが。なぜなら、具体的なテーマ

を持って行かなければ勉強にはならないという事と、与えられる一方ではなくてこちらからも与えるものが無ければ交流にはならないからです。これらをクリアしてから行くのなら絶対勉強になると思います。すごく頑張っている人が皆楽しそうにやっていますし、見学に行けば凄く喜んでくれます。双方にとって良い事なのですが、その為には明確な課題を持って行かなければいけません。是非そういった機会を持つ為にも議論を進めていきたいと思いません。

今日のまとめ

小林：こうやって見てみると、中心になるのは住民同士の話、住民と役所の話ですね。役所内部の話は役所自身でどうにかしてよ、という意識があるのでしょうか、今日はあまり話が出てきませんでしたね。全体の話も抽象的なので議論が進んでから話が出てくるのかもしれませんがね。

住民同士の課題で言うと、前回の会議では区の話が多かったですね。今日は区という枠に囚われずに、それ以前の個人レベルから考えていった意識の問題があるのじゃないかという話が出ました。あるいは絆が失われたという話や、草取りをしても皆見てみぬ振りをするという話もありました。今日は自発性が足りないという意識の問題のところの話が多く出ました。意識をどうやったら変えていけるのか、どうやったら芽を出させる事ができるのかという事で、参加を制度化させてはどうかという話もありました。自発性が足りないという課題をどうしたら解決できるのかも考えていく必要がありますね。

それから役所が色々なプランを作るのだけど、それが住民の求めているものと違う。あるいは役所のやり方でやっていくと動きがとり難い部分がある。前例がないからやりませんか、毎年やっているのでも今年もやりますとか、また来年考えてくださいとか、他の地区で出来ない事をこの地区だけやるわけにはいかないとか。そういうところをもう少し動けるように、住民の皆さんが動きやすいようなプランを考える仕組みを作っていくとイケない。ただある意味役所の宿命という部分もあるので完全には解決できない部分もあるでしょう。それならそこは住民がやれるようにしようとか色々方法を考えていきましょう。

プランを作ってやるだけでなくそれが本当に効果があったのかチェックしなければいけないという事と、それを次のプランにつなげる話に住民も参加して考えられるようにする仕組みも必要かもしれませんね。

今日は大きく分けてこの3つの話が出てきましたね。今日までで課題の共有はある程度出来たかと思しますので、4月以降は具体的な仕組みを考えていこうと思います。我々も3人おりますので3チームに分かれて動いていければ良いなと思います。皆さん次回までに「自分はどれを考えていきたいか」「本当にこの3つでいいのか」という事を検討してください。

岩崎：これからはこの3つの話だけをしていく事に決まった訳ではありません。あくまでも

今日の20分の議論で強く出てきたという事です。

PDCの課題は役所側だけでなく住民側にもあるのかもしれませんが。今後どう分けるのかは我々が持ち帰って検討してみます。次回までに3つのチームのタイトルと検討すべき内容、それと今まで出てきた課題のリストを皆さんにお届けできるようにします。

会長あいさつ

次回会場は1・2回目で使った会場です

4月5日に懇親会をします

4 その他事務連絡

- 1、次回までにチーム編成の事をお知らせしますので返事を頂きたい。
- 2、前回の会議録に修正があればお知らせください。
- 3、冒頭で放映したキャッチの番組を見たい方はDVDでお渡しします。
- 4、4月5日の懇親会の出欠表を事務局にお渡しください。
- 5、機が熟せば視察に行く事もあるかもしれません。

第5回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年4月14日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（35名中31名）

（団体選出） 板倉通文、河原克人、中根堅太郎、小野洋雄、神谷賢司、
板倉峰尾、竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小笠原勝人、小林道広、
永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、
長谷川哲巳、杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫、
長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平

（事務局） 地域協働課長 鳥居典光、協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀
島政司

傍聴者 1名

会議内容

1 市民憲章唱和

2 会長あいさつ

4月5日の懇親会には多くの方が参加してくれた。お互いの壁を取り払う、良い懇親会になったと思う。

今後話し合いがスムーズに進むことを期待します。

3 議題

(1) 課題整理の確認

・岩崎：今までの4回は課題を整理して共有することに費やしてきました。これからはその課題を乗り越えるための具体的な仕組みを議論していこうと思います。

その前に、この会はやらせであってはいけないので、課題の整理が本当にこれで良いかの確認をしたいと思います。気になるところや、抜けがあるところなどあれば言ってください。（発言者なし）

(2) グループ分けについて

・岩崎：具体的な仕組みを議論するにあたって、3グループに分かれることを予定しています。これについて何か意見がある人はいますか。

- ・会 員 : どのグループに入れば何ができるのか、というのが見えてこない。もう少し噛み砕いて、具体的な説明をして欲しい。
- ・岩 崎 : 他市の取り組み等を踏まえて具体的な例を挙げる事はしていく。でも実際に何をしていくのかは皆さんの議論に期待したい。
- ・会 員 : ペーパーを見ると、この3つの分け方では8つのマトリックスを網羅出来ていないようですが。
- ・小 林 : 全てカバーする案もありましたが、限られた時間で全てを議論するのは難しいと思いこのチーム分けにしました。
- ・会 員 : 何でも出来るというのは逆にやりにくい。漠然としていて皆戸惑っているのではないかと思う。
- ・松 井 : だから分野別のチームに分かれて考えていこうとしている。
- ・岩 崎 : 今後は具体的なケースを挙げて検討していきたいと思う。
- ・小 林 : 到達したい結果はそれぞれ考えているはず。その結果に至るプロセスを作るのがこの会の役割だと思う。
- ・会 員 : マトリックスで分科するのではなく、課題ごとに分科した方が分かりやすいのではないか。
- ・小 林 : 以前皆さんの話を聞いていて、Pは自分たちでやるけどDは役所にやってもらうというようなニュアンスを感じた事があった。そこは分けて考えないといけないので、こういう分け方にしました。やりにくいようなら違う分け方でも構いません。
- ・会 員 : それぞれが明確なテーマを持っていないと大勢に流されるのではないか。一度それぞれやりたい事を発表してみてもどうか。
- ・会 員 : 基本的にはこの3つの分け方で良いと思うが、抜けが出来ないようにそれぞれのチームの枠組みを大きくしてはどうか。
- ・会 員 : 5~6人に分かれて意見を出しあってみてもどうか。
- ・会 員 : 効率的に進めるためにも、やはり3グループに分かれて先生方に入ってもらった方がいいと思う。
- ・会 員 : 団体選出、公募市民、市職員の人数が偏らないように考慮する事も必要ではないか。
- ・会 員 : 皆宿題でどのチームに入りたいか考えてきたはず。とりあえず分かれてみて、自分のやりたい事と違ったら変わればいい。
- ・小 林 : こういう分け方はどうでしょう。(別紙参照)
- ・岩 崎 : 試しにこれで分かれてみましょう。

・ **自発性を生む仕組みの検討** (自発性グループ)

小野洋雄、板倉峰尾、小林道広、永坂幸子、荒井秋男、長谷川哲巳、杉浦英樹、菅沼正

義、金原厚夫、長谷川有里、鈴木美奈子（11名＋松井先生）

・ **住民ニーズや現場感覚を活かす仕組みの検討**（住民ニーズグループ）

河原克人、中根堅太郎、神谷賢司、竹原幸子、磯貝忠通、森下昌美、須田翠子、石川幸雄、杉浦彰、松野盛高、金田雪雄（11名＋小林先生）

・ **やりっ放しにならない仕組みの検討**（やりっ放しにしないグループ）

板倉通文、浅井宣、遠山良徳、小笠原勝人、本田和明、石川清勝、鈴木博道、堀田葉子、鈴木洋平（9名＋岩崎先生）

- ・ **岩崎**：うまく分かれませんでしたね。団体選出、公募市民、市職員の人数も偏りが無いようなのでこのチーム分けでいきたいと思います。

(3) グループ討議

自発性グループ

◎進行：長谷川哲巳 記録係：菅沼正義

～自己紹介（敬称略）～

- ・ **会員14**：青少年育成推進員連絡会。今現在、様々な活動をしている人は分かっていると思うが、そうでない人にもちょっとした気付きを与えれば上手く回っていくのではないかと？
如何に気づかせるかというきっかけ作りが大事。
- ・ **会員26**：団塊の世代だけでなく、地域の中でどうすれば若い世代に自発性を持ってもらえるか。
- ・ **会員31**：地域で色々なことをしているのに発表しない人が多い。そうした人を掘り下げていくと色々な協働の形が見えるのでは。
- ・ **会員30**：失われた絆をどう取り戻すか。近所付き合いの中で何かを生み出したり、課題を解決したり出来ればいい。
- ・ **会員33**：このテーマが一番仕組みとして作りにくい。逆に可能性が大きいテーマ。やらされているのではなく楽しんでやる仕組みを考えたい。
- ・ **会員4**：西端地区連絡員。地区では5年前から毎月第4日曜日に環境美化デーとして町内清掃を行なっているが、最近協力してくれる人が少なくなってきた。何とか動員でなく自発的にできる仕組みが作れば良い。
- ・ **会員8**：文化協会。西端地区に住んでいるが、こちらの出身でないためか中々地元の人と何かを一緒にやるということが少ないが、あいさつ運動等自分がやれば何とかなると思っている。誰かが動き出せば動ける人は多いので、そうしたネットワーク、心の掘り起こしを考えたい。
- ・ **会員19**：過去に子ども会や地域の役をやっていた。実際やってみると楽しいし多くの人にやってもらいたいと思う。そうすることで人と人とのつながりができる。何を

するにも住民同士というのは基本だと思う。

- ・ **会員15**：女性団体。役員のなり手がいない。若い人は会に入る気がないように感じる。若い世代の気持ちをどうしたらつかむことができるか考えたい。
- ・ **会員25**：役所と住民といったテーマで話すより、住民同士のあり方について考え、それを役所の業務にフィードバックできると良い。住民のやりたいことをバックアップするのが役所の仕事だと思う。
- ・ **会員23**：おやじの会の代表として蓮如ウォークを主催している。今の実行委員は自発性があるが、もっと輪を広げるために人材を発掘したい。それにはどうしたらいいかヒントが得られれば。

～議論概要～

- ・ **松井**：自己紹介の話の中でいくつか共通している事として、自分がやりたいことはやる、又はやれているという人はたくさんいる。やってみたらおもしろかった。それを広げていきたいという思いがある。若い世代の既存の会への参加意識が低い。尻込みしやすい文化→あまり表に出たがらない。(人から何か言われるのを畏れて?) 出てこない層がある。といった現象がある。それをどう乗り越えるかという事を一つの切り口として議論を進めてはどうか。

～会員4さんの自己紹介にあった環境美化デーを具体例として議論を進める～

- ・ ゴミ拾いに関しては、みんなが大事だと分かっている、大事だと思っているがやりたくない、できない。何かきっかけがあればいいが、それが何なのか…
西端地区では5年前にクリーン西端宣言を行い、毎月1回の清掃活動を始めた。初めは良かったが、だんだん参加者が減ってきている。
- ・ 行政が市民に「やってください」とお願いしたり、人数集めをしたりしては自発性が育たないのではないかと。
- ・ 環境課で環境美化活動を行う人にステッカーを配っている。そうした人でも自宅前清掃でここまではウチ、ここからはヨソという人もいる。
- ・ 環境課で登録して清掃活動をしている人はたくさんいる。中には自宅周辺だけでないところ(碧南高校周辺)まで清掃している人もいる。「隣近所の人を誘ったら?」と言っても「それは恥ずかしいから」と、他の人に積極的に働きかけない。
- ・ 人と人との関係作りの上で、あいさつは重要。あいさつ運動から始めて、それがひとつの習慣になれば一緒にできるようになるのではないだろうか。
- ・ 行政は何でも数字で評価する。ex) クリンピーに何人参加しました。
一度数字を出してしまうと、次にそれを減らすことが難しい。また、そういった形の評価では心が育たない。「こんなことをやっている人がいます」と紹介する形で評価すれば心が

育つのではないだろうか。

- ・「誰某がやってくれた」という評価や言葉がけが実感に繋がる。
- ・「やった」と実感できる、認められることで自発性のモチベーションが持続するのでは。そういう評価の仕方がないだろうか。
- ・逆にそうした評価を望んでない人もいることは確か。
- ・自発性を育てるには評価の方法が重要になるため、他の班との関わりもでてくる。

- ・**松井**：環境美化をテーマに議論を始めたが、様々な問題点・意見が出された。今後もこうした問題点を出していくには、具体例をあげて議論を進めるのがいいのではないか。

住民ニーズグループ

◎進行：小林先生 記録係：松野盛高、金田雪雄

～自己紹介（敬称略）～

- ・**会員24**：男女共同参画や子育ての関係で、市役所内の横のつながり、連携に疑問を感じている。
- ・**会員12**：PDCAサイクルの中でPが大切。市民ニーズとのずれがある。経営原理の導入を。
- ・**会員32**：都市計画マスタープランの作成で市民の方と一緒にいる機会がありました。
- ・**会員29**：具体的テーマで発言し易いと思い、このグループを選択しました。
- ・**会員2**：区の仕事は従来の繰り返し。民意を反映できる仕組みを。
- ・**会員18**：市からの要請が多い。動きやすく改善すると良くなる。
- ・**会員9**：いろいろな面で期待しています。
- ・**会員22**：発明クラブで指導員、市の職員、子、親とかかかわっている。発明クラブを通して、ものづくりを発展させたい。
- ・**会員16**：定年後に動ける人が余っている。区のあり方、区の力の活用を検討したい。
- ・**会員5**：花と防災でボランティアをやってると市の各課にまたがる問題が多い。
- ・**会員3**：公民館の運営で住民がもっとできることがあるのではないか。街路樹の剪定、防災で時間のある人を有効活用すべき。市のスリム化、コスト削減に努めたい。

～議論概要～

- ・地区にリタイア組が沢山いるので、公民館を任せてもらい、安くて質の高いサービスを提供したい。システムを変えると幸せになる人がいたり、不幸せになる人がいたりするが…。
- ・市への頼み事は議員より、区長の方が市の対応も早い。区長はボランティアで議員より忙しく働いている。今のような議員ならば減らして、報酬を地区で働く人に分配（区長を有償ボランティア）したほうが良い。

- ・小 林：地区には行政からたくさんの補助金等が出ている。にもかかわらず、区の運営がうまく回らないのはなぜか？
- ・区長の選出方法、自発性を促す方法、不適切者の制限……。
- ・小 林：行政からの補助を飲食に使っていてよいのか。区の会計にも透明性が必要なのではないか。皆さんからの意見は、地区に関する意見が多いが、この場では、地区内部の問題についての議論は行わないようにしましょう。
- ・公民会運営審議会に出席すると7,000円、この会議も6,500円。なぜこんなに(高い)手当が出る？変えようとしても「条例の規定だから(公運審の場合)」と言われ、変わらないまま任期が終わってしまう。一方で、無償なのにもっと市に協力している市民もいる。このような報酬や謝礼を低くして、平たく皆さんに支払ったほうが良い。(要資料提供)
- ・住民の声を反映できるような仕組みが必要。ゴミ袋の有料化など、区に入らない人がごみの立ち番をしないなど得をする現状の見直しを求めても反応がない。
- ・小 林：次回までに「市に伝えても回答、返事がないことをどうすれば良いか？」を宿題とします。

やりっ放しにしないグループ

◎進行：鈴木博道： 記録係：岩崎先生、堀田葉子

～自己紹介(敬称略)～

- ・**会員27**:やるのを決めるのは良いけれど、次の人が引き継ぎ、やりたくないのにやるのは辛い。前例踏襲でなく、やり方を変える、見直すことが必要。ときには、やめる勇気も必要である。市役所内も、住民側もそう。そういう仕組みができればいいと思う。
- ・**会員1**:元区長。評価はやらなければならないが、数年先を見据えた評価が必要なのではないか。何が問題か判らないのに、課題を決めるのは難しい。例えば、私の地区では、神社が2か所あるが、「山車」の維持管理は将来的にできるのだろうか。保存のことを心配する。作ったのはいいけれどその後の管理をどうするか。
- ・**会員13**:JAとして市の行事に出るけれど個人的にはやりっぱなし。自分が異動したとき、次の人が同じところに出るのは見ていて忍びない。
- ・**会員34**:イベント→見直し→次につなげる これができたりできなかったりで、実績はあると思うが、見直しはなかなかできない。CAは、面白いところではないが、ないと成り立たない。自分なりにしっかり勉強したい。
- ・**会員20**:税理士。PDCAのCAの部分に重きを置きたい。その重要性を思っている。高浜市のアウトソーシング評価委員、補助金の審査委員をやっている。

- ・**会員21**：チェッカーマンは嫌われる。根回しをするとチェッカーマンにはなれない。しかし、チェッカーマンにならなければならない。その際、代替案を持っていないと、そうでなければ次のPにつながらない。
- ・**会員10**：現役離れて15年。QCサークルを体験。自分の失敗をはっきり言えるのが大事。それをいえる雰囲気が必要。それによって、問題点がはっきりしてくる。
- ・**会員11**：商工会議所。事後で自己評価はしている。協働事業でも細かい記録をとって報告していくことが必要で、第三者を入れて評価していくことが大切。
- ・**会員28**：CAは必要。例えば、「ゴミ分別」の目的が忘れられている。何のために分別するか、その広報もない。若い年代は市役所に興味もないから、届きにくい。

～議論概要～

- ・**岩崎**：CAは絶対必要。行政は一応CAをやっているが、住民同士のCAこそが必要、これは碧南だけではなく、どこもやっていない。住民—行政、住民—住民の両方も、同じようにCAをやっていく必要がある。
- ・補助金の自己評価や高浜市のアウトソーシング評価については、公益性や効果があるかについて外部評価し、次年度に活かしてもらおう。事業仕分けとつながっているわけではない。
- ・町内会のモデル地区を、例えば10万円程度で募り、報告書を4枚程度出す。それを、トヨタの現地現場主義ではないが、市が現場でチェックする仕組みがあっているのではないか。→具体的な仕組みの提案として「市が単に報告を受けるのみだけではなく、しっかりチェックする」
- ・老人会の総会くらいは高齢担当者が来てもよいのでは…。
- ・行くだけでは意味ない、CAにはならない。評価の仕方が判らない→例えば、高浜は町内会の加入率は何%かといった指標が必要か。
- ・補助金という言葉はどうか。効果の確認はどうすればよいか課題。
- ・補助金の評価基準は外部評価で決める。ただ、事務が煩瑣になる。評価委員は有償ボランティアである。

次回は、「お金を流れっぱなしにしないのが、やりっぱなしにならないこと」との観点から、

①補助金、交付金、委託金、助成金、負担金の違いを勉強する。

→ 資料をお願いします！

②碧南市の地域諸団体にどんなお金がどのくらい流れているか、資料をもらう。

→ 事務局、資料をお願いします！

4 その他事務連絡

グループ討議の中で役所に出してほしい情報があれば可能な限り対応します。

第5回は5月12日(水)19:00～21:00 市役所2階 会議室4・5

第6回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年5月12日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（35名中32名）

（団体選出） 板倉通文、河・克人、中根堅太郎、小野洋雄、神谷賢司、
板倉峰尾、竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小笠原勝人、小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、
長谷川哲巳、杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫、
長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 地域協働課長 鳥居典光、協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀島政司

傍聴者 0名

会議内容

1 市民憲章唱和

2 会長あいさつ

事前に事務局から資料の送付があったと思う。大変ですが、予習復習をしっかりとこの会に臨んで欲しい。来年、市長に良い提案が出来るように頑張りましょう。

3 議題

(1) 事務局より資料について

今回の資料は前回会議の中でご指摘いただいた内容について取り急ぎ用意させていただいたもの。分かり難い点や、更に必要な情報があるようでしたら事務局にご意見下さい。詳しい資料を提供いたします。

P9 補助金、交付金、委託金、助成金の次に「負担金」を追加。

(2) グループ討議について

- ・岩崎：今日はいくまでも最初の一步と考えて頂きたい。ゴールは来年、市長に対して協働のあり方を提言する事。それに向けて4回ぐらいこういう形で議論して具体的な意見を出してもらおうと思う。議論の中で必要な資料があれば今回のように事務局に対応して頂けるので、皆さん忌憚りの無い議論をして下さい。

それと、今日は書記係を6名連れて来ました。分科会形式でやっていく間は彼ら

に書記係を任せて、皆さんは議論に集中して頂きたいと思います。それでは 8 時 50 分までグループ討議をして頂いて、残りの 10 分で 3 チームの議論の内容を発表してもらおうと思います。

(3) グループ討議

自発性グループ

◎進行：長谷川哲巳

～議論概要～

- ・松井：今日は具体的な仕組みを作っていくんだという事を意識して議論していきましょう。
- ・意識の高い人が先頭になってやっても何も生まれなかったのが今まで。気づきを与えなければ広がらないし、それを仕事とする仕組みがないと長続きしない。ボランティア学校のような、そういった人材を育成する会社を作ってはどうか。
- ・朝日新聞に「近所づきあい、してますか？」という記事があった。よくしている16%、少ししている50%。不特定多数に働きかけるのは難しい。一番身近なところで何かしようとしたとき、こういった人たちから声を掛けていけたらいい。
- ・誘い込む時の言葉が大事で、嘘を言ってはいけない。考えがずれてくると長続きしない。信頼関係を築くために挨拶は大事。
- ・信頼関係が築けていると、活動に誘ったり声を掛けたりもしやすい。
- ・挨拶したいと思われるような人間になる事も大切。子どもが相手の場合は特に。
- ・地道に地域の方に声を掛けて人材を探す方法もある。やっぱりリーダーがいないと広がらないし、団塊世代や年配の方ばかりでもいけないと思う。リーダーになれる若者を発掘・育成する必要があるのではないかな。
- ・活動の核となってリーダーをやってくれる人が必要だとは思う。でも、ずっと携われるかと言われると尻込みする人が多い。時間等の都合に合わせて少しでも参加してくれる人を受け入れていく事も大事。
- ・次のリーダーを育てても1・2年で辞められては困る。長く続けてもらうには興味があると思ってもらわないといけないし、家族の協力も不可欠。
- ・どんな集まりでも参加すればそれなりに良い事があると知ってもらいたい。この会でも色々な人と知り合えたいし勉強にもなる。
- ・団塊世代には趣味の無い人が多いように思う。そういう人がやりがいを求めて参加してくれるようになればいい。
- ・松井：働き盛りが十分な時間を確保して活動するのは難しいので、退職者から発掘するのも一つの方法。若い人はある程度仕事として対価が貰えないと参加できない。地域の中でそういう仕事を作る事も考えられる。
- ・やりがいを感じている間はお金の事なんか考えない。やりがいを感ぜさせるのは指導者の

役目。出来る人が、出来る時に、出来るところでやるのが良いと思う。

- ・時間の都合がつかなくて活動に参加できないというケースが多い。やる気はあるのにもっ
たいない。活動日の決め方などを工夫して、もっと参加しやすいようにできないか。
- ・活動を続けられる人は喜びを感じられる人。すぐ辞めてしまう人は喜びがある事に気づけ
ない人ではないか。
- ・一度やったら続けなくてはいけないというのは違うと思う。辛いなら辞めてもいい。でも、
もう一度入ってくる門戸は開いておかないといけない。
- ・喜びの種が必要なのでは。ポイント制など分かりやすいメリットがあればどうか。
- ・若い人が意見を言う会があっても良いと思う。
- ・松井：今までの話をホワイトボードにまとめてみようと思います。(別紙参照)
- ・自分の生活に直結している活動なら多少無理をしてでも参加してくれる。頑張って活動し
た人は対価が得られる等、生活に直結する仕組みが必要ではないか。
- ・参加した人はポイントが貰える仕組みは良いと思う。手伝ってもらえたらありがとうと伝
える事も大事。
- ・自分が必要とされているという意識が無いと芽は出てこない。

～次回に向けて～

誰がどんな仕組みをどのようにやるのか取っ掛かりだけでも考えてきて下さい。

住民ニーズグループ

◎進行：中根堅太郎

～議論概要～

- ・小林：発言時間は 1 分以内に。他の人の発言にかぶせない等基本的なルールをしっかりと守って効率的な議論をしましょう。
- ・申請した区長でないと言所へ話しが通らない。
- ・区民の声とは誰の声を聞けばよいのか。土木課としては区民の声を代表して区長に言っ
てもらいたい。
- ・市役所は区民の声として連名や署名があると聞きやすい。
- ・市役所としては市民の声を区長から聞いて返答しても、その返答を区長が市民に伝えてく
れているのかが疑問。
- ・役所に要望の電話をすると受け答えはしてくれる。でも結果の報告がないのでその後どう
なったかが分からない。サービスが行き届いていないと思う。
- ・民間会社では返答が遅かったり、返答をしないということはある。
- ・CS の観点だと役所は対応が遅いためサービスが悪いと感じる。
- ・小林：役所には電話対応のマニュアルがあるのか。
- ・建設部ではマニュアルはない。個々のモラルの問題でサービスが異なる事もある。
- ・防犯灯をつける際も安全課から電気屋へ依頼するが、電気屋も忙しいのですぐには対応で

きない。どうしても時間はかかってしまう。それなのに区民から次の日には対応が遅いとブログへクレームが書き込まれた。

- ・市長への手紙を使ってウォータークーラーの設置をお願いしたら 1 ヶ月後に設置され満足している。役所はきっちりした対応をしてくれている。回答も必ずしてくれる。
- ・区民の声はどこに言えばよいのか分からない。区長や町内会長に言えば役所に言ってくれる仕組みがあるのも今日初めて知った。
- ・ゴミ袋の有料化がまだ出来ていない。
- ・市役所では有料化にする際の袋の形状やサイズの問題を検討しているところ。
- ・立ち当番をしている人には無料配布をし、していない人には有料化すべき。
- ・役所に頼めば何でも対応してくれると思っている市民にも問題がある。
- ・議員のあり方について考えるべき。区民の代表であるのに何もやっていない。議員より区長のほうが動いて苦労しているように思う。
- ・役所から返答が欲しければいつ返事をくれるのかや、担当者の名前を聞くなど区民から行動をおこす事も大事。
- ・小林：役所の対応にマニュアル本を作成して共有してみてもどうか。区民は回答や報告が欲しい。そのルールを作るべき。
- ・役所に電話をかけている以上は何かを発信しようとしている。その事に対して電話した区民に結果を報告するのは当然ではないか。
- ・小林：区長が区民の代表として役所に意見を言うことはオフィシャルなのか。全ての窓口を区長にすると大変ではないのか。
- ・全ての問題を役所に電話をしたら役所もパンクしてしまう。電話をする前に区民がよく考えてから電話をすべき。
- ・区民の中からも議会に参加できるようにし区民の意見を反映させる仕組みを作ってみては（碧南モデル）
- ・市議員が 22 名いても議会で発表しているのは 12 名。あとの 10 名は何をしているのか。発言しない議員が多すぎる。
- ・選挙で選ばれる市議員を減らして、本会の会員など市民が議決権を持たない形で議会に参加できると良い。
- ・小林：議決権を持たない議員の件は、日本では法律の問題上無理。でも問題意識の共有は必要。共有の場をどのように作れば良いのかが今後の課題でもある。
- ・名古屋市の地域委員会は選挙で選出されている。
- ・小林：鳥羽・高浜・松阪・伊賀では街づくり委員会に議員も参加している。
- ・地域で良い活動やシステムがあっても区民全員がそのことを知らない。月に 1 回代表幹事会があるので、そこで情報共有ができればいい。
- ・区長の任期が 1 年または 2 年では何もできない。

- ・碧南で決まっている予算割の費用対効果があっていない。
- ・今回の報酬 6500 円も他に充てればよい。
- ・小林：委員報酬審議会がある市もある。報酬の件は別途検討しましょう。
役所と区民のパイプは区長でよいのか、これはオフィシャルなのか。
問題意識や情報が共有できる仕組みが必要。評議会のような場所が必要なのでは。
他の進んでいる市の勉強も必要。良い部分はまねをしてみてもどうか。
- ・街づくり協議会が碧南にあってもよいのではないか。
- ・市の情報発信として広報は非常に重要なもの。目を通さない市民にも問題がある。
- ・広報に目は通すが頭に入っていない。市民が読みたくなるような広報作りを役所もするべきではないか。

やりっ放しにしないグループ

◎進行：小笠原勝人

～議論概要～

- ・岩崎：この部会では主にチェックとアクションの部分について検討していく事になります。
- ・碧南市の場合、対象は補助金と委託料がほとんどではないか。自治会に補助金と委託料が入るとどちらも同じ認識で扱われるのは問題。
- ・岩崎：委託料はやらなければならない事へのお金。補助金は自治会で使い道を決める事ができるお金。違いを認識しておかなければいけない。
- ・碧南市は近隣各市より多く委託料支援をしている。事務局が用意してくれた資料が参考になる。
- ・委託料は多いと問題なのか。少なければ良いというものでもないと思う。
- ・碧南市では1世帯あたりに出ている地域振興補助金が1900円。他の市では800円。広報等配布資金は1世帯133円。
- ・区に登録していない人には広報が配られていない。区への平均加入率は78%。
- ・広報は市内全ての世帯に配らなければならない。全世帯に配ってくれということで委託料を払っている。
- ・区に入っていない人はゴミ当番もやってくれない。
- ・区に入っていない人にはゴミ袋は配られないので、各自市役所へ取りに行かなくてはならない。足りない分のゴミ袋は市販されていないため、市役所で買うことになる。
- ・住民登録時、市の窓口は町内会への加入を呼びかけているが強制力はない。法律で強制したりできないか。
- ・岩崎：現時点では納税以外の義務は基本的にはないはず。
- ・若い人への加入促進策を考えられないか。
- ・4月になって連絡員が交代していく。賃金を払ってでも常駐の人が必要だと思う。
- ・申請書は、去年のものを見せて同じものを市に出してもらおう。市のチェックとしては好ま

しくない。

- ・老人会の会費等いくら出ているかがわからない部分がある。お金の額を知らせることが大事。地区にお金がいくら渡っているかを市民は知らない。
- ・チェックをするための根拠が知らされていない。
- ・広報は区民以外にも配らなければいけない筈。配られているかどうかチェックしておかなければまずい。市は区から必要と言われた数の広報を区に渡している。
- ・全戸配布を市が決めていればそうすべき。そうでなければ入っていない人には配らなくていいというのをいつ決めるか。
- ・広報を配らないのは大問題になる。民放テレビで市の情報を流すわけにはいかないし、広報以外に情報伝達の方法がない。
- ・市民だけど区に加入していない人へどうやってサービスを届けるか。
- ・回覧板も区に入っていない人には回らない。
- ・子ども会だけは皆参加している。区の行事にも参加している人は多い。
- ・区に入っていない22%の市民をどうやってフォローしていくか。
- ・区費を払う、ゴミ当番、交通安全運動、公民館イベント、子ども会などをやってもらって協働になるのではないか。
- ・区が流しっぱなしにしないためには皆で認識する必要がある。情報をどうやって共有するか。具体的に提案するためのネタを出している。
- ・碧南らしさは、どうしたら出るか。今の碧南に満足している声はない。余分なものを削るなどして、削った部分を何かにあてられないか。捻出していったこれをしようという目的があれば碧南らしさを出せるのではないか。
- ・碧南は他市に比べて祭りイベントが多い。そこを削るというわけではなく、良い部分を拡充してアピールしてはどうか。他所を知らなければ何とも言えないが。
- ・地域の活動内容や地域のための活動をしている人を広報で紹介して、他の地区への波及効果を狙うのもいいのではないか。
- ・広報で地域活動をピックアップして予算の使い方を見せるのもいいのではないか。
- ・色々なものが期限付き。長くても3年。どんどんなくなっていく。今後の産業変化に碧南市はついていけるかがどうか不安。将来のことを考えておく必要がある。
- ・お金の使い方を市民に知ってもらう必要がある。関心が高まれば市民同士で議論の機会も増えるのではないか。
- ・補助金を会計報告していないところがある。もらいっぱなし。
- ・岩崎：市内の小学校区は7つ。1小学校区に2000万円の補助金が出ている。大阪市は500万円。大阪府豊中市も500万円。これだけ多ければ色々できるのではないか。補助金が出ていることを地区の人は知っているのだろうか？

(4) グループ討議進捗報告

自発性グループ

もっと裾野を広げて参加者を募った方が良い。その際リーダーをどうやって発掘・育成するかの仕組みが必要。分かり易いやりがい（ポイント等）を提示できれば、自発的に参加してくる人も増えるのではないか。

近所づきあいが希薄になったと言われるが、そうでない人も多くいる。そういった人たちを参加させる仕組みも考えられるのではないか。

住民ニーズグループ

市民の声を伝える手段が乏しいので市民の声が伝わり難い。伝えてもその後の動きが見えないので行政の対応が悪く感じる。色々お願いをしても、いつやるか、いつやったかの反応がない。役所で対応マニュアルを作ってはどうか。

市民の声を伝える手段は、区長を通してだけでいいのか。顔が利かない人は直接行政に言っても聞いてもらえない。色々な組織団体があるので、共通意識を持って行政にお願いをしたら色々やってもらえるのではないか。

防犯パトロールについても知っている市民が少ない。情報の共有が必要。広報を熟読する市民が少ないので、広報に載っていてもあまり市民には伝わらない。

やりっ放しにしないグループ

やりっ放しでお金の流れがうまく行事などにつながっていないのではないかという話になったが結論はでていない。共通の場に立つまでじっくり議論が必要。

広報は全市民に対して配る事になっているが、区に入っていない人には配られていない。碧南市民の22%は市民でありながら区民ではない。この人たちをどうやって引き入れて公平な立場でやっていくか。そこから協働は始まるのではないか。

チェックしてアクションに結び付けるには色々な違いを見ているだけではダメ。中身はどうなのか、市民同士のチェックアクションがどういう違いになるかを議論しないとイケない。

4 その他事務連絡

平成23年2月20日（日）シンポジウムの開催を予定しています。

第6回は6月9日（水）19:00～21:00 市役所2階 会議室4・5

第7回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年6月9日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（33名中30名）

（団体選出） 河原克人、中根堅太郎、小野洋雄、神谷賢司、板倉峰尾、
竹原幸子、浅井宣、磯貝忠通、小笠原勝人、小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、
長谷川哲巳、杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫、
長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 地域協働課長 鳥居典光、協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀
島政司、野澤武司

傍聴者 3名

会議内容

1 市民憲章唱和（副会長）

2 会長あいさつ

皆さんこの会に慣れてきたようで会場の雰囲気非常好い。最近、町で皆さんに出会うと同志に会った気分になる。皆さんと仲良くなった分良い議論も出来るようになったと思いますので頑張りましょう。

この会を行政のやらせだと言っている人もいるようですが、今日は傍聴者の方もいらっしゃるのでそうでないところを見せましょう。

3 議題

(1) 事務局より連絡

「石川鋼逸さん」「角谷信二さん」におかれましては、多忙によりご出席が難しい状況が続いており、今後も継続した参加が困難とのことです。これまでの議事録をお読みいただく中で、会議の議論も進んでいることから、このままでは他の会員の皆さんにご迷惑がかかるとの思いから、会員を辞退したい旨のご連絡をいただきましたので、ご報告させていただきます。

また、前回会議で地域の活動に対するインセンティブとしてポイント付与等出来ないかという意見が出たので、最近のニュースで報道された「おむすび通貨」と「地域電子マネー」

の話題を資料提供させて頂きました。

※第6回会議録の修正

P4下から11行目「自動販売機」→「ウォータークーラー」

P6上から14行目「1,600円」→「1,900円」(平成22年からは2,000円)

P7上から8行目「区民ではない人」→「区に加入していない人」

(2) グループ討議の前に

・**会員21**：6回会議録で、岩崎先生が1小学校区に2,000万円の補助金は多すぎると発言している。この言い方では誤解を招くのではないか。

・**岩崎**：言いたかったのはこれだけ多ければ使い道も色々考えられるのではないかという事。指摘の通り、多過ぎるとするのは踏み込み過ぎた表現なので訂正したい。チェック&アクションをテーマにしている班なのでこういった形で問題提起させて頂いたと理解して欲しい。

それではグループ討議を始めて頂きますが、今日は具体的な『仕組み』とそれを根付かせるための『ルール』の二つを議論して深めて頂きたいと思います。

(3) 課題解決に向けたグループ討議

自発性グループ

◎進行：杉浦英樹

～議論概要～

- ・**松井**：前回はボランティア活動をどう活性化するか、または育成するかという話が多く出た。地域の活動をしている人が多くいるが、そういった人達をどう巻き込んでいくかという意見もでた。
- ・地区の住民同士の繋がりについても議論したい。区民館を住民の集まる場所に出来ないか。老人向けのイベント等を行っているので老人の姿は見かけるが、そこに子どもが遊べる場所を設ければ、母子が集い異世代の情報交換や交流の場になるのではないか。そこから何か活動が生まれるようになればいい。アパートに住んでいるが、日中は誰もいない。ここが終の住処だと思えないと地域にも興味が湧かない。交流の場を作ればそういった問題も改善できると思う。
- ・そうなると館長が大事になってくるが、今は誰が館長になれるのかも良く分からない。有能な人が館長になれる仕組みが必要だし、区の運営と一緒に単年度制ではいけないと思う。公民館等との連携も必要になってくる。
- ・子供の送り向かえ等で警察OBの方が老人クラブに働きかけて活動をしているが、まさにホワイトボードの図(別紙左部参照)に当てはまる。子どもを事件・事故に巻き込まない

事や、子どもとの交流が生まれる事などがやりがいになっている。

- ・ ホワイトボードの図は理屈としては成り立つが、現実的かと言うと疑問。地域の事で 1 番頑張るのは定年後やる事が無い老人。市からちょっと補助してもらえれば、草刈りをしたり、青色パトカーに乗ったりする。そういう人達をどううまく使っていくか。その人たちを見て若者もついてくると思う。
- ・ 現在もそういう補助はある。お金が人を動かす力になるのは分かるが、頼まれてやっているという意識に変わっていかないようにしないといけない。
- ・ 松 井 : 現役の人の話あまり出てこない。ついて行く人は大勢いるがリーダーがいなのが問題。前回ボランティアリーダー養成会社のようなものを作ってはどうかという話が出たが、それによってお金の意味も全く違って来る。
- ・ ジャンルによって最適な担い手も違うのでは。世代ごとにやれる事も違うので、それぞれが出来る事をやるべき。
- ・ 行政がやらなくていい事までお金で解決してきた。それを変えていくには若い人が活躍して補完しなければいけない。
- ・ リーダーの育て方に関して行政にノウハウはないのか。行政と密に情報交換しながら、若しくは臨時の市職員という形で育成出来ないか。
- ・ 区長の選び方が難しいし、就任年数も問題。副区長を何年かやってから区長になる等、反省を活かして運営できるような仕組みがあればいいが。
- ・ 松 井 : 多様な活動があるが、ホワイトボードの図の形態は共通。心が伴わなければ活動は続かないし、活動を続けるためにお金が伴う事もある。そもそもお金が無いと出来ない活動もある。
- ・ リーダーを決めるのに地域・地区にこだわる必要はない。全国からリーダーを募集して、それから配属先を決めればいい。
- ・ 松 井 : 地区のリーダーとボランティアのリーダーは少し違う。今は地域のリーダーの選び方をどうするのかという話。選挙なのか、ボランティア会社から推薦されてくるのか。育てるための研修も必要かもしれない。区民館等の活用方法を検討する必要もあるかもしれない。
- ・ 活動に責任が伴うのならば対価は必要。逆に対価を与えれば責任を持ってやってもらえる。市は住民サービスを減らしている。住民が自発的にやるにあたって、NPO にやって頂くような形をとってはどうか。
- ・ 市役所がどうやってくれと指示してはリーダーは育たない。何かやる毎に行政も含めて委員会を作る。その中でリーダーを育てるのはどうか。
- ・ 松 井 : 今日までの議論で検討すべきテーマが4つ明確になってきた。
 - 1、リーダーの選び方・育て方の仕組み。
 - 2、やる気のあるメンバーを掘り起こす仕組み。

3、やる気を出させる仕組み。

4、活動に対する対価のあり方の仕組み。

～次回に向けて～

それぞれのテーマに対して、実際に誰がどうするのかを考えてきましょう。

住民ニーズグループ

◎進行：河原克人

～議論概要～

- ・名古屋では地域委員がおり 900～1,500 万円の予算を用いて地域のために活用できる仕組みがある。今の名古屋の仕組みは碧南が考えている方向性と同じ。
- ・地域委員は選挙で選ばれた人がやっているが、あまり知られていないため選挙に出る人も少ない。地域委員は日当 2,000 円でやっている。
- ・小 林：河村市長は名古屋市全区域で地域委員制をやりたいが、議会で否決され今年是一部地域のみで実施した。選挙権も有権者登録をしないと選挙できない。実際登録しているのは 10%以下。
- ・防災の観点だと、災害時には隣近所の助け合いが必要。しかし地域住民はそれほど関心がないのが現状。弱者や独居老人の方も多いので助け合いは必須。今の自主防災会では災害が来たときには対応できないし機能しない。
- ・組織を公共の中で作る事が大事。区長が手一杯になっているのは組織化されていないため。
- ・団塊の世代を活かした組織を作り、団塊世代の方々の生きがいをつくりたい。
- ・公民館を団塊の世代の方に担ってもらい、役所ではなく区民で運営してみてもいい。
- ・地区の問題を行政に頼らず地区内で解決していく時代になってきたのではないか。そのためには組織化が大切。モデル地区を作り少しずつ広げていくべき。
- ・高浜市では挨拶運動や防犯活動に行政から予算付けされている。無料で 3 歳以下の子どもを預かってくれる施設もある。
- ・行政の役割、市民の役割は何なのか。地域住民の話し合いの場や組織が必要。明確なビジョンを市民が持ち、それを役所が応援するべき。役所はアドバイスや情報提供をして住民の邪魔をしない。住民も役所を何でも屋と思っはいけない。
- ・高浜市を参考にして、自分達で問題提起し、解決できる組織を作るのも大切。
- ・役所は住民の声を潰さないようにするべき。逆に吸い上げるべき。
- ・ここ最近、近隣で殺人未遂や空き巣などが多発している。防犯パトロールの強化をすべきではないのか。住民同士での防犯意識が必要だと感じた。
- ・碧南のシルバー人材センターには 500 人登録している。しかし 4 割の方は不景気のため仕事が無いので、防犯パトロール等をしてもらえれば良いのではないか。
- ・青色パトロールの講習を警察で受ければ自分の車にも青色回転灯をつける事が出来る。こ

の活動も地域住民で取り組んでみてはどうか。

- ・区民館の中でも組織作りが出来ていない。まずは一番小さい範囲の区単位できっちりとした組織作りが重要。区単位で出来ない事は、市単位でも出来ない。
- ・市にはたくさんの団体（市民団体・ロータリー・商店会等）があり、各団体の代表者が集まって話し合えば情報共有や問題解決が出来るのではないか。
- ・区民の絆が大切。でも絆を作るのは難しい。
- ・市民が地域づくりに参画しているという意識をもてる場面づくりが大切。
- ・地区によって組織作りのルールが別々なので碧南市として一本化すべき。地区によって仕事量も予算も異なるので公平なシステムが必要。

・小林：（ホワイトボード（別紙参照）を活用しながら）

今までの議論を踏まえた上で『仕組み』と『ルール』を検討したい。『仕組み』は高浜市のまちづくり協議会や名古屋市の地域委員会等を模倣するのも一つの手である。またモデル地区を指定して、そこで実効性や機能性を試行錯誤していくという案もある。更に公民館をどうすべきなのかが今回拳がった。

『ルール』は市民の責務を文書化、また基本条例の変更等が必要となってくる。地域の事は地域で解決出来るようになるかもしれないが、例えば名古屋市では市の予算を使用しているので、そこには責任が発生する。

次に委員はどうすべきか。名古屋市では選挙で選んでおり、住民の声も反映されているため代表者もやる気がある。では碧南ではどのように委員を決めていくべきか。選挙で選ぶか団体の代表なのか。

- ・碧南の区長も選挙で選ばれている。
- ・あれは選挙ではない。もうすでに決められている。
- ・小林) 碧南ではどの単位の大きさを組織を作るべきか。
- ・市単位が良いのではないか。この会も市民協働を考えているため。色々な団体の代表がいたほうが情報共有しやすい。
- ・C・S地区ミーティングの規模が良い。ただ担当が変わる都度方向性が大きく変わるようではいけない。担当が変わっても思いが変わらない団体が必要である。
- ・規模が大きくなり過ぎると意見も多くなるので纏まり難くなるのでは。
- ・連絡委員が現在121人おり、組織はある。うまく活用できれば良いのではないか。
- ・新たな組織を作るのは難しい。今ある組織を作り直して機能させたほうが良い。
- ・碧南は独特の文化がある。区によって個性がある。
- ・大人が動く時は自分の子どもの為の場合が多い。教育や防犯灯等、子どもと関わる事であれば動きやすいのでは。それなら小学校区域でやった方が良い。
- ・区民館単位の小さい区域でないと意見が吸い上げられにくい。
- ・市長に提言する時、今後の為にどれだけ役に立つ事を提言できるかが重要。

・そもそもこの会議の意味は何なのか。議論しているが、結果として市民の意識全体が高まらないと議論のための議論になってしまうのでは。

・小林：その為には、市民との意識の食い違いやニーズに応ずる仕組みが必要。

～次回に向けて～

他の市の活動を勉強してきましょう。

次回はそれを踏まえた上で、碧南バージョンを考えていきましょう。

やりっ放しにしないグループ

◎進行：浅井宣

～議論概要～

・岩崎：市民だけど区に加入していない人や、余分に使っているとされている区費をどうやって削るのか。余分だという判断をどう行うのか。お金の使われ方を市民に知ってもらうにはどのような方法があるかを考えていきたい。

・22%もの市民が区に入っていないことを知らなかった。

・岩崎：全員区に加入するべきか。区に入らない自由もあるのではないか。

・区への加入を強要するのはどうなのかと思っていた。しかし、そういう人たちも行政サービスなどの利益を享受している。

・災害時、区民ではないから知らないと言ってしまうのか。人間の親身としてやっていくのか。そういう住民活動が基本だと思う。

・情報の共有が出来るので、皆さん区民になってほしい。高負担高サービスを受けるのか、低負担低サービスを受けるのか。折り合い点を見つけられる金額とサービスがあれば22%が減っていくと思う。

・岩崎：区費はどのように使われているのか。

・お祭りの費用などではないか。人件費は区か市かどちらから出ているのだろうか。

・混ざっている。区費と補助金は分けていない。

・転入者やアパートの住民など、引っ越してきた人の加入率が低い。

・家賃に区費を含んでいて、大家さんが区費を払っているアパートがある。

・岩崎：区に入ってもらおう努力をしなければならない。区費の使われ方を示すべき。神社の祭礼に補助金と区費を混ぜて使ったら怖い。信教の自由を侵すと言われたら言い訳が利かなくなる。自治会によっては、祭礼を特別会計にしている。意に反して神社に寄付させられる事の無いようにしなければいけない。

区費と補助金も区別するべき。手続きで正当性を持たせておかないと、チェック&アクションの前提にならないのではないかな。町内会長は毎年変わってしまうから前年通りにしかやらないし、出来ない。会計マニュアルや総会のマニュアルを作らないとまずいのではないかな。町内会も、入ってもらおう努力をしなければい

けない。

- ・区民になるとどういったメリットとデメリットがあるのかを示す必要がある。
- ・碧南市民になって良かったという認識が出てこない人が多い。
- ・情報がなかなか入ってこないため、恵まれている環境に気付かない。見えるものを作る必要がある。
- ・市内で高齢者の孤独死があった。人と人との繋がりを作っていくことが大切。
- ・岩崎：皆が繋がるというのも行き過ぎではないか。一人で居る自由も必要。区への100%加入は行き過ぎだと思う。
- ・区に入った後に繋がりが出来ていくのではないか。
- ・なぜ加入しないのかというと、お金がいる。役がまわってくる。知らない人が多い。という理由がある。このような理由を排除していかないといけない。
- ・岩崎：マニュアルが色々あった方が良い。あれば役員の負担が減る。
- ・マニュアルは市が作ってはいけない。
- ・岩崎：余分なモノを削って、削った部分を何かにあてられないかという事について、どんな仕組みが考えられるか。何をもって余分なものと判断するのか。本当にやりたかった事に使える仕組みがないと削る気も起こらない。どういうふうにチェック&アクションで具体化していくかが課題。
- ・碧南市を元気にするための活動にお金を使っていくべきではないか。
- ・岩崎：最終的には自分達のお金でやっていけるようにすべきではないか。
- ・補助金ではなく補助人を出せとラジオで言っていた。
- ・岩崎：地域公共人材のようなものが必要。教育システムも必要。お金だけじゃ動かない。人を育てる具体的な仕組みを考えておかなければいけない。
- ・市民活動をやりたくても、どこに行けば良いのかが分からない。機会を与える必要がある。市民が興味のあるものを見つける必要がある。
- ・広報だけでは人が来ない。新聞やマスコミの力は大きい。
- ・必要とされていると思っているからボランティアが出来る。
- ・岩崎：地域でやる事について、こういう人を求めているという情報が市民に伝わる仕組みが必要。ネットを使うのも一つのやり方。鈴鹿市が日系ブラジル人に向けて防災情報を携帯メールで流している。携帯メールでアンケート調査もしている。メールモニター制度といい、市の施策に対する評価などをメールで流して即座に集計している。若い人達の意向が把握できる。市の事業に対する評価を聞きたい時にクイックレスで意見が入ってくる。統計的には厳密ではないが、答えてくれるのは普通のアンケート調査で答えてくれない人達。これらはチェックの部分にあたる。碧南の場合、情報を流す最適な道具が見出されていない。

今日の話は、情報の公開と共有を基にチェックをどのようにやっていくかとい

う話だった。市民と市民、市民と行政のチェック&アクションとして町内会の中でのチェック&アクション等具体的な仕組みを考えましょう。

～次回に向けて～

市民と市民、市民と行政との間でのチェック&アクションをどうするかについて考えてくる。

(4) グループ討議進捗報告

自発性グループ

今回はボランティア活動を図で表現してみた。これにより「リーダー」「メンバー」「やりがい」「対価」が重要だと分かったので、以上の4つを柱として『リーダーを選び、育てる仕組み』『やる気のあるメンバーを掘り起こす仕組み』『やる気を出させる仕組み』『責任に対する対価のあり方の仕組み』を議論していく事になりました。

住民ニーズグループ

住民のニーズを市に取り入れてもらうには組織が必要。様々な団体が情報や問題意識を共有できる場を作り、組織化するという意見が出た。地域の事を地域で解決できる組織が良いので、公民館に組織運営に携わってもらう事も考えられる。モデル地区を指定して試行錯誤しながらやっていきたい。今後、組織のメンバー構成や市民の責務を文書化するといった事を考えていきたい。

やりっ放しにしないグループ

区に加入していない人も、何かきっかけがあれば区に加入してくれるのではないか。グループとしては区に加入していない人を減らす方法が必要だと考えている。人・物・金をどう見つけるのかと、どう使うかの仕組みも必要。そして、お金の使い方等を含め良い事があればもっと知らせていかないといけない。その方法として全市民が読んでくれるような革命的な広報を考えようという話になった。

4 その他事務連絡

第8回は7月14日(水) 19:00～21:00 市役所 2階 会議室4・5

第8回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年7月14日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（33名中31名）

（団体選出） 板倉通文、河原克人、中根堅太郎、小野洋雄、神谷賢司、
板倉峰尾、竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、小笠原勝人、小林道広、永坂幸子、森下昌
美

（公募市民） 須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄、
長谷川哲巳、杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫、
長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 市民協働部長 片山初敏、地域協働課長 鳥居典光、協働推進係長 生田和
重、協働推進担当係長 亀島政司、野澤武司

傍聴者 3名

会議内容

1 市民憲章唱和（副会長）

2 会長あいさつ

先日、安城市の市民活動センターを見学する機会を頂いた。行政ではなくNPOが運営しており、非常に良い活動をしていた。公民館の民営化などは難しいかもしれないと思っていたが、碧南でも出来るのではないかという可能性を感じた。皆さんも難しそうだからと言って尻込みせずに積極的に提案して下さい。

先生方が夏休みに入った事もあり、碧南の施設見学会と懇親会を予定しています。時間の都合がつく方は是非参加して下さい。

3 議題

(1) グループ討議の前に

・岩崎：私どもの申し出に対して懇親会と施設見学会を設定して頂いた事に感謝致します。皆さんも無理にならない範囲で構いませんので参加して頂けると嬉しく思います。

当初のスケジュールでは10月位に具体的な協働の仕組みを一度まとめるという事になっています。これは市が出来るものはすぐ実行していきたいので、来年度予算の編成作業が始まる頃には提案が欲しいと考えているからです。

今日はそれに向けて出来る限り多くのアイデアを出して欲しいと思います。それを今ま

での議論を振り返りながら私たちがまとめて、次回までに次のステップの議論の素材として皆さんに提供させて頂きたいと思います。

(2) 課題解決に向けたグループ討議

自発性グループ

◎進行：板倉峰尾

～議論概要～

・松井：具体的な仕組みを考えていくために、今までの議論を踏まえて3つの枠組みを作ってみました。

①リーダーの選び方・育て方（研修）の仕組み

②人々のやる気を起こさせる仕組み

③活動に対する対価のあり方の仕組み

今回はそれぞれの「仕組みの具体的な内容」「仕組み作りに必要な協働」を対象別（自治会・NPO等）に考えていきましょう。

・ボランティアリーダーの選び方は立候補や推薦、選挙などがある。育て方については研修会を開いて何度でも勉強してもらった方が良い。

・ボランティア登録制度を考えてはどうか。登録した人の経歴や活動内容が記録されるようにして、そこからリーダーを選ぶ事も考えられる。

・条件を絞ってリーダーを選ぶと、よほどの的を射た人しかリーダーになれない。なるべく大勢から選んだリーダーの方が好ましいと思う。

・人材バンクはどうか。シルバー制度と同じように口コミや誘い込みで広げていく。条件付きでやるという登録の仕方もある。

・区長が大変なので、その下で手伝ってくれる人もいた方がいいと思う。

・指導者登録を以前やっていたが、個人情報の問題で尻込みをした。どこまで情報を開示するかははっきりしないといけなかった。登録と登録休止を自分の好きな時に行えるようにした方が良いと思う。

・町内会などの役員は仕事がどれだけあるか分からないので気軽にやると言えない。役割を提示したり、業務ハンドブックのようなものを作るべき。

・活動をしっかり広報するべき。共感して参加してくれる人がいるかもしれない。

・市ではなく民間でそれぞれがやりたい事を挙げて登録する人材バンクを作る。行政と離して運営した方が機能するのではないか。

・碧南と言っても広い。自分の地域ならやるが、遠い所だとやらないという事も考えられる。小さいエリアでもマッチング出来るようにしたい。

・町内会の役員はやる事が多く負担になる。もっと分担してやればそれぞれが2～3年続けてやる事も可能ではないか。スペシャリストも育つ。

・市でリーダー講習をやったが、市民のニーズが分からずうまくいかなかった。ボランティ

- アの育成を専門とする組織があると良いかもしれない。
- ・碧南市のボランティアサポートプラザのマッチングはうまく機能していない。ある事自体あまり知られていない。公民館レベルで情報を取り出せるようにしたい。
 - ・マッチング専門の職員が必要。参加を促すように声掛けをする人が必要だと思う。
 - ・安城の市民活動センターを見たことがある。マッチングやリーダーの育成、助成金申請のための講座などを行い、その後のサポートもしっかりしていた。貸館をやっているので市民も集まってきて、情報発信の場にもなっていた。
 - ・人材バンクに登録した人をまとめたり、活躍の場を提供したりする場所が必要。市民活動センターが出来ればその役割も担えると思う。
 - ・県はNPOの認証等の仕事があるので専門的な部署がある。市はそれが無いのでどうしても他の職員が片手間でやる事になってしまう。
 - ・ノウハウを持っている人を外部から連れてくる事も考えられる。一からやるより効率的だし、それを見て育つ後継者もいると思う。
 - ・情報発信のメールも、その人が欲しいものだけを送るなど考えた方がいい。
 - ・楽しそうにやっていたら参加者も増える。楽しさを伝えるのが大事。
 - ・他所でやっている行事や、良い取り組み等の情報を集めて配信する組織が欲しい。
 - ・松井：意思表示した人にすぐレスポンスする事が大事。情報提供はタイムリーなものではないといけない。
 - ・蓄積されたノウハウを見える形にして伝える事が出来れば良いと思う。
 - ・地区の仕事は対価を支払ってやってもらえばどうか。やりがいは生まれると思う。
 - ・活動に対してお茶代という名目で区費を出す取り組みを始めた。
 - ・活動意欲はあっても時間が無くて参加できない人がたくさんいる。その人が少しでも時間が出来た時にタイムリーな情報を渡してあげたい。
 - ・対価はお金でも構わない。一步を踏み出させる事が出来ればそれで良いと思う。
 - ・とにかく褒める事が大事。そうすれば人は動いてくれる。写真で紹介したり、ちょっとした気遣いで人を引き込む事も出来る。
 - ・広報のページを増やして、情報量を多くしてはどうか。
 - ・広報は全市民が読んでくれるわけではない。編集から発行迄に一ヶ月半ぐらいかかるのでタイムリーな情報は載せられないし、主観を入れられないのもネック。
 - ・外部に作ってもらって広報と一緒に配ればいい。+αの形で考える。
 - ・公の場所だけでなく、コンビニやスーパー等でも広報できないか。広報の仕方の部分で協働を考えられるかもしれない。
 - ・市長がどこまで予算付けを考えているのか分からない。対価の範囲などはそれによって変わってくる。
 - ・市のお金に頼らずに、協賛金を集めたり活動でお金を集めて対価を支払う等の方法も考え

て欲しい。

- ・活動した分が何らかの形で還元されるとやる気も変わってくる。
- ・区の助成金の10%を地域貢献にまわすということで、市民活動の対価にしてはどうか。活動基金を個人、企業からも集め、市、商店街、NPO等で運用を考える仕組みも考えられる。へきなん独自の名称をつけた地域通貨の発行もある。
- ・**松井**：行政が市民活動センターを作って、運営は民間に任せる。その中で全市的なものや地域ベースのものなど多様性のある人材バンクを作ってマネジメントする。研修や講座の開催、情報発信なども行いたい。その為の広報での協働も考えられる。蓄積されたノウハウを整理して、アイデアリストのような見える形にするのも良いと思う。

対価の捻出の仕方については、地域通貨の発行や既存の仕組みの中から10%出す、資金を多様なところから集めてくるファンドを作る等の意見が出た。

次回はこれらを整理して皆さんにお見せしたいと思います。

住民ニーズグループ

◎進行：竹原幸子

～議論概要～

- ・**小林**：地域の事を自分達で解決できる組織が必要。いきなり市全体でやるのは難しいのでモデル地区を作ってみてはどうか。その組織はどの大きさですべきなのか。メンバーはどのように選んでいくのか。宿題として高浜市等の他地域の組織づくりを勉強してきて頂いたと思います。

広報などに目を通していない市民がおり、ただ言いつ放しの声がある。自分たち市民は何ができるのかを考えてルール化し、協働の基本条例等の作成も検討していきましょう。

- ・当初は区単位が良いと思っていたが、公民館単位が良いのではないか。公民館の民営化にも現実的である。また公民館に各団体の代表が集まり話し合いも必要。
- ・小学校区単位が良いのではないか。PTAとの連携や協力がしやすく、若い力を取り入れる事ができる。
- ・小学校区は7つあり、公民館も7つあるが小学校とセットではない。
- ・地域にある神社（概ね地区の区民館の単位と同じ）の問題もある。小学校区で選別すると子ども会の催し等が今までの区分と変わってしまう。
- ・地域で何がやりたいのかで範囲が変わってくる。地域の課題をしっかりと考えてから範囲を決めるべきでは。
- ・地域の課題を解決する観点からみれば、PTAや幼稚園や保育園と一緒に進められる可能性が高い小学校区単位が適正ではないか。

- ・市の総合計画（10カ年）を見ると、へきなんの協働を考える会がやろうとしている内容が既にかかれている。方向性が一緒であればバラバラで動いてはダメではないか。
- ・何をやるかによっては、大きい範囲と小さい範囲の両方が必要ではないか。
- ・何をやるにしても行政や市民だけでは出来ない。やはり行政と市民の協働が必要。
- ・既存の組織を壊すのではなく、どのように活かしていくかが大切。
- ・どの範囲でやるにしても拠点が必要。議論をする為の集まる場所が必要なので公民館区単位が良いのではないか。
- ・新しく作るのではなく、既存の建物を活用するのであれば公民館区単位が良い。
- ・大きな組織と小さな組織を作るべき。7つの大きな主要地区の組織の中に区民館単位の小さな組織を置いてみてはどうか。
- ・新川は区民館が非常に多い。それに比べ棚尾は区民館が1つ。区民館で分けるとバラツキが生まれる。
- ・町内会の組織を見直すべきではないか。本来、町内会はとなり近所で助け合える地域づくりの役割も担っているが、現状は近所付き合いもあまりない。独居老人宅への見回りも遠方から民生委員が来ているのが現状。
- ・町内会の役員にやってもらいたい事があるが、仕事量を増やすとクレームが発生する。やらされ感を抱いている人が多いのが問題。
- ・中学校区単位はどうか。他の地区とひとまとめになるため、情報交換や問題の共有ができ、横の繋がりが出来る。
- ・地区によって文化や人間性の違いがあり、区単位を一緒にすると問題が起きるのは。棚尾地区と大浜地区は特に違う。
- ・現在は小学校区で線引きされている事が多い。
- ・部落地区の問題もある。若い方は気にしていないかもしれないが、年配の方は気にしている人が多い。
- ・小林：そもそもへきなんの協働を考える会が発足した理由は、今ある組織・団体をうまく機能させる窓口が無い為では。地域協働体はひとつの例（別紙1）刈谷市でも、市民の声を集めて方針や指針を決めて条例を作っている（別紙2）この情報を参考にして碧南ルールを作っていくのはどうか。
- ・地域活動をボランティアでやっているとは続かないのでは。やはり報酬は必要。
- ・市民から役所の窓口でクレームが入った。内容は広報に掲載されていたが、市民は『そんなもの見るか』と反論。広報を見るルールはあった方が良いのでは。
- ・市民は権利を主張するが、義務を果たしていないのでは。
- ・小林：社会教育法には公民館の役割とは色々な団体が連絡を取り合う場と定義づけられている。しかし本来の役割が果たされていない。
- ・町内会や議員では出来ない事を協働を通じて進めていきたい。

- ・連絡協議会のようなものがあれば各団体がスムーズに機能するのでは。
- ・広報などを配るのは町内会のメンバー。町内会はトップダウン方式になっているので各役割が明確である。
- ・市民の声を吸い上げ、実行する役割をする人が必要。
- ・高浜市は市民の声を市民が実行している（土手の花植え・防犯パトロール等）
- ・名古屋市は市民の声を地域委員が吸い上げ、実行するのは行政。
- ・公民館の運営審議委員会は活動報告や予定を聞くだけの場になっており機能していない。機能させるルールが必要。
- ・人を選ぶルール作りと任期の見直しが必要。選挙ではなく各団体の代表から入って頂ければ様々な声が入りやすいと思う。
- ・組織を条例に明記し、役割に権限を持たさなければ市民が動かないのでは。
- ・現状で地域を動かしているのは町内会である。町内会と対立しては前に進まないの町内会との関係性が重要。
- ・小林：次回までに今まで議論した意見を集約してきます。次回は他のグループとの情報共有・問題共有を行い、碧南バージョンの組織作りとルール化を進めていきましょう。

やりっ放しにしないグループ

◎進行：本田和明

～議論概要～

- ・岩崎：町内会に未加入の人、町内会の運営マニュアル作成、余分な物の見つけ方と削り方。出てきた物の使い方。必要な制度や仕組み。以上について、前回の議論では具体的な話が出なかった。今回は情報共有について鈴鹿市のメールモニター制度を事例として、藤川（書記）に紹介してもらおうと思う。
- ・藤川（書記）【鈴鹿市のメールモニター制度について説明】
- ・インセンティブがないと登録者が集まらないのではないかと。どれだけの事業費がかかるのかも気になるところ。
- ・C&Aの中で、メルモニのような制度もいれてみてはどうか。
- ・町内会の中から一人ずつ人が出て、こういう制度に参加するのはどうか。
- ・岩崎：高浜市は、仕分ける事業をどう決めているのか。
- ・370 事業がある。市の内部で判断されていたので詳しくは分からないが、94 に絞り込んで、さらに40になった。1000万円以上の事業と客観的数字が無いものは対象となった。仕分けた結果を市の内部で調整して、金額も含めたまとめを委員会として市長に提言する事になっている。行政評価のC&Aとして、事業仕分けも一つの仕組みではないか。
- ・元気ッスは市から補助金をもらい町内会として出ていたが、補助金が廃止になり、企業や市民が主体で出場するようになった。

- ・岩崎：やった事の意義が市民にどう伝わっているか。情報発信が必要。
- ・今は評価する機能がない。やってしまえば終わり。
- ・岩崎：行政の補助金による地域の活性化は色々なやり方がある。行政評価システムは市民に分かり易いものでないといけない。次年度に対して市民側も評価をしていない等、改善点はあると思う。改善の知恵を出す事や評価など、行政も市民もやっていない事がある。最後には振り返りをして、来年度に結びつくような提言をしてこそ補助金ではないか。
- ・広報にアンケートを折り込み、意見を集計するののも一つの手段ではないか。
- ・市長への手紙の集計結果を公開していないのではないか。
- ・市長への手紙の結果を広報で公開していても知らない人が多くいる。皆、興味のあるところ、必要なところしか見ない。
- ・アンケート結果が反映されるような仕組みが考えられれば C&A として機能するのではないか。
- ・市民が事業仕分けをするなど、メールでも意見が言えるようなものがあれば C&A の一つとして良いのではないか。
- ・岩崎：行政評価システムに市民が参加するというのが一つの具体的な仕組みなのかもしれない。行政が評価した事を市民にもう一度評価してもらえればどうか。
 広報の紙面作りを市民が担うのも一つのやり方。編集の段階で市が伝えたい事を市民流にアレンジして記事にするというのも良いと思う。
- ・広報の紙面作りに参加しませんか、というようなアクションを起こしたことはあるのか。見たことがない。
- ・岩崎：そういった事に興味を持って、そこから市政を見てみようと思う人は碧南市民の中に必ずいると思う。特にリタイアした市民の中には、編集のプロもいるはず。活用したほうが良い。
- ・目標値を定めて、広報でその成果を目に見える数字として出した方が良い。
- ・町内会の加入率について、総合計画で平成 32 年の目標値は出ている。
- ・本来は年度を区切り細かい目標値を出すべき。
- ・目標値に対する結果を見て、どう動くかという事を考えないといけない。
- ・岩崎：行政は町内会に未加入の人に対して「入らなければいけませんよ」とは言いづらい。加入率を上げるためには地域の人達が何かしないとけない。目標値だけ出していれば市が加入促進してくれると捉える人も出てくる。
- ・市として行政として何が出来るかも考えておかなければいけない。
- ・岩崎：町内会を紹介するパンフレットを作れると思う。活動内容にメリットを感じさせる事が出来れば加入者は増えるはず。それが市民と市民の C&A。そのために、町内会はどういう仕組みを持っておく必要があるのか。
- ・一宮市に市民税の 1%の使い道を 18 歳以上の市民が決めて市民活動団体に補助すること

ができる制度がある。補助金の使い道について市民から市民への説明責任が発生する。これは市民同士のC&Aだと思う。

- ・岩崎：元気ッスなど、楽しんでいる事を伝えきれていない。評価を受けるべき。評価を受けた団体が色々言えば、他にも参加者が増えるかもしれない。補助を受けたら第三者の評価を受ける事などの方針を作っておくのも一つの仕組み。

行政と市民とのC&Aについては、行政評価システムをどう実質化していくかが一つの軸になると思う。市民と市民とのC&Aについては、お金の流れは官民の関係と同じ様な形で説明責任を負うというやり方も考えられる。

補助を受ける事については何らかの協議をする場が必要ではないか。お金を使う時の透明性が官民のC&Aの仕組みと同じであるべきではないか。

(3) グループ討議結果発表

自発性グループ

市民活動センターを作ってはどうかという話になった。ニーズに則した施設にしたいので、行政ではなく実際に活動している人に運営を任せたい。人材バンクを作って、このセンターでマッチングをしたり、講座を開いたり、タイムリーな情報配信なども行いたい。広報についても市民と協働できないかという話が出た。ノウハウを形にしたアイデアリストの作成という意見も出た。

対価のあり方については地域通貨などの話をしていたが、時間が足りなかった。

住民ニーズグループ

様々な情報や問題意識を共有し、地域の事を地域で解決できる組織作りについて議論した。公民館や小学校区など範囲をどうするか、また運営に関わる代表者は単年ではなく複数年で参加した方が好ましいという話になった。まずはモデル地区を設定して実施してはどうか。

市の広報を読まない人がいる。色々な活動をしやすいにする為にも、市民の責務を明確にする必要があるのではないかという意見も出た。

やりっ放しにしないグループ

情報公開が情報共有に繋がるのではないか。事業仕分けを行うと透明性が高まるし、説明責任が生まれるという効果がある。

成果目標は数値だけではないし、それを次年度に活かさなければいけない。

市民が参加する事によって良い広報が出来るかもしれない。

第三者から評価してもらえる仕組み作りが大事ではないかという事で議論が終わった。

4 その他事務連絡

- ・懇親会と施設見学会の出欠は7月30日までにご回答をお願い致します。
- ・第7回会議録の確認。特に意見が無いようですのでホームページで公開させていただきます。

- ・映画上映会のお知らせを配布させて頂きました。まちづくりに必要なものを考えさせられる内容ですので、興味のある方はぜひご覧下さい。
- ・第9回は8月11日(水)19:00~21:00 市役所2階 会議室4・5

第9回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年8月11日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（33名中28名）

（団体選出） 板倉通文、河原克人、中根堅太郎、神谷賢司、板倉峰尾

竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 須田翠子、本田和明、石川清勝、石川幸雄、長谷川哲巳

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫

長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 地域協働課長 鳥居典光、協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀島政司、野澤武司

傍聴者 5名

会議内容

1 市民憲章唱和（副会長）

2 会長あいさつ

昨夜の懇親会と今日の施設見学会には多くの方に参加して頂けた。市民の方も初めて訪れた施設があったと思うし、改めて訪問する事によっていつもとは違う視点で見る事も出来たと思う。この経験は今後の議論の中にも生きてくる事と思います。

3 議題

（1）議論の前に

- ・岩崎：懇親会と施設見学会にお付き合い頂きありがとうございました。市内を回らせて頂いて色々な施設が整っているなと感じました。しかし、市民の高齢化や公共施設の老朽化にどう対応していくのか。碧南が元気なうちに何かしようとする、そこには協働という言葉がキーワードになってくるのだと思います。

今日はいよいよまとめに向けて議論をさせて頂こうと思いますが、たくさんの方に発言して頂くための会議の基本ルールをもう一度確認しておいて下さい。

（2）各部会からの経過報告

※別紙参照

（3）全体討論

- ・会員35：自発性グループの「市民活動を仕事とする仕組み」についてもう少し話を聞きたい。

- ・松 井 : 例えばNPOなど賃金を払ってする仕事もある。地域のコーディネーターなども職として考える事が出来る。
- ・会員15 : やりっぱなしにしないグループに補助事業の見直しが必要とあるが、私たちはきちんと会計報告をして、広報でも活動をアピールしているのに年々補助金が減らされている。このような事が続くと困る。
- ・岩 崎 : きちんとしている団体があるという事は承知している。補助金を受ける為の協議の場も必要なのではないかという事。
- ・会 員3 : 自発性グループについてですが、市の予算は議会の承認を得ないといけないため、我々の提案との整合性について心配である。
- ・松 井 : 権限は無いが、提案することで何らかの形で参加していく事が出来るのではないか。
- ・岩 崎 : ここでの議論はかなり自由度の高いもので良いと思う。それがどう実現されるのか、またはなぜ実現されないのか。その情報が官民で共有されないと協働は始まらない。
- ・会員23 : やりっぱなしにしないグループの、補助事業に対しては評価を受けるべきという点についてですが、社会教育委員や公民館審議委員会など評価をしているところはある。今後は足りないものを議論していくべきだと思う。
- ・岩 崎 : 市民の感覚としては何故という様なものの解答が見つからない。当事者としての自己評価になってはいけない。住民と評価内容の共有が必要。
- ・会 員1 : 市民であるのに区費を払っていない人が多くいる。区費を収めないといけないと決まっている訳ではないがこのままで良いのか。良い案があれば教えてほしい。
- ・岩 崎 : 自治会への加入はあくまでも任意。現在加入率は79%あるが、世帯単位での数字なので実際活動している人はもっと少ない。自治体に加入する事によるメリットを説明する事と、組織運営マニュアル作成による負担軽減が必要になってくると思われる。
- ・松 井 : 入りたくなるような自治会を作っていくしかない。外国人等の加入していない人にメリットを語れる人が少ないのではないか。こんなに良い事があると伝えられる様になれば良いと思う。
- ・会 員5 : お金も労力も出さなければいけないのにやりたいと感じさせるのは困難。加入していない人にメリットが先に行くのがおかしいのではないか。加入してもらうために楽しいものにしようという発想ではなく、これだけ恩恵を受けているのだから還元してくださいというやり方にすべきだと思う。
- ・岩 崎 : 非加入者にも自治会がどういうメリットを与えているのかを説明しなければいけないのかもしれない。それでも強制は出来ないのが実態。
- ・会員16 : 自治会に入らない理由をもう一度調べ直し、それから次の手を考えなければい

けないのでは。

- ・**会員15**：お金が出せないので加入できないと言われた事がある。
- ・**岩崎**：非加入者にも様々な理由があるのは確か。
- ・**会員23**：区費を区費として集める理由は何なのか。市民税等として徴収し、地区に分配すれば良いのではないか。事業を行う際も、昔から伝わる伝統のようなものがある。それを踏まえた上で議論した方が良いのではないか。
- ・**岩崎**：区費の使途が地域にうまく知らされていないのではないかという議論はあった。日本は政教分離なので、地域のお祭りは祭礼として区費で賄わないといけない。市の補助金と混ぜてはいけないので分けて考える必要がある。
- ・**会員18**：区費と市の補助金の使い方を住民が正確に理解していない。区費を払わなくても生活に何の支障もないため払わない人が多いのでは。しかし子ども会の行事には多くの方が参加している。このように受益と負担をあまり理解していない人が多い。
- ・**岩崎**：子ども会には皆参加している。そこにヒントがあるのではないかと思う。
- ・**会員14**：小さいエリアと大きいエリアとでは、違う協働が見えるのではないか。括りがもう一つあっても良かったのではないかと思う。
- ・**岩崎**：一番身近な地域社会がメインになってくるのは確か。そこでPDCAが回っていないのに市に強く文句は言えない。ただ、市と市民全体との協働を総論として考えていく必要はあると思う。
- ・**松井**：誰と誰との協働なのかによっても変わってくる。エリアと相手、そのクロスで考えていきたい。
- ・**会員3**：区費を払っていない人をどうするのかは難しい話。この議論を蒸し返しても堂々巡りになるだけ。
- ・**会員1**：お金に困っている人や、労力を提供できない人は区費を払う分母から外してもいいと思う。みんなが払えば一番良いのですが決してそうならないため、それを私たちがどう引っ張っていくかという事を議論したい。
- ・**岩崎**：運営マニュアルを作るというのは具体的な提言になると思う。世帯加入率の考え方というのを検討項目として入れておく事も考えられる。
- ・**会員5**：ボランティア活動などに参加するとポイントが付与されるようにして、自分で貯めたポイントを色んな所で使う事が出来るという仕組みを作ってみたらどうだろうか。ボランティア保険は結構高いので何とかしたい。ボランティアコーディネーターなどを作ってみるのも良いと思う。簡単にボランティアを頼めなければやってもらえない。
- ・**松井**：地域通貨と共用出来る仕組みも考えられるかもしれない。将来に向けて貯めていくというのも良い。

- ・**会員35**：やりっ放しにしないグループが議論した自分達の活動をしっかりPRすればお金がもらえるという仕組みを作れば情報開示がされるようになる。この制度が出来れば自発性グループのやる気を起こさせる仕組みにも繋がっていくと思うので是非進めていきたい。
- ・**岩崎**：私は他の市で公募型補助金の審査委員長をやっているが、プレゼンと質疑応答を行い、それに対して採点し、採用団体を決めるという流れでやっている。全てオープンにしているので団体の活動のアピールの場にもなっている。しかし4~5年やっていると呼募団体が減ってくる傾向がある。ネタ切れ・意欲切れとよく言われるが、団体の担当者が変わった時に起こる事が多い。そういった課題はあるが非常に意義のある制度だと思う。
- ・**松井**：私は公募型補助金を貰う側の立場ですが、使い勝手と何に対して補助されるのかが重要だと感じている。一宮市などが実施している市民税の1%を好きな市民活動団体に託すという制度は評判が良い。
- ・**会員22**：今日の施設見学会に参加して、公共施設はもっと先の事を考えてから建てるべきではないかと思った。リタイアした人が市職員の代わりにそのメンテナンス等の仕事を担えば経費が節減できると思う。
- ・**岩崎**：これからは少なくとも廃止するまでのランニングコストを考慮して作らなければいけない。既にある施設に関しては使い倒すしかない。その方法の一つとして指定管理者制度が考えられる。しかし経費の節減だけを目的とした指定管理制度の導入はあり得ない。これは安価で指定管理を任せても、官製ワーキングプアの発生に繋がってしまうだけだからである。
- ・**会員32**：市長にこれだけの事を提言するに当たって、それぞれの提言に優先順位を付けてはどうか。そうしないとあまり市長に伝わらないし、実現が難しい事でも重みをつけることによって市長も考え方が変わってくるかもしれない。
- ・**会員21**：課題をもっと明確にする必要がある。
- ・**岩崎**：各部会で重複している部分はいくつかにまとめられると思う。既存団体の補助金見直し等を来年度からやるというのは難しい。直ちに出来る事と、時間を掛けて検討しないといけない事がある。そもそも碧南の協働は誰と誰の協働かという事をもう少し整理しないといけないと今日の議論で強く感じた。ハンドブックを作るという事に関しては具体的な提案として中身を議論していく事になる。次回までに1本のストーリーにまとめて、提言書素案として皆さんに提示したい。

4 その他事務連絡

- ・町内会の加入率の話が出ましたので、町内会加入世帯調査の結果を配布させて頂きました。各地区の中で減免制度等を工夫すれば加入率も変わってくるのではないかと思います。今後も調査結果の分析が進み次第報告させて頂こうと思います。

- ・第8回会議録の確認。特に意見が無いようですのでホームページで公開させていただきます。
- ・第10回は9月8日(水) 19:00～21:00 市役所2階 会議室4・5

第10回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年9月8日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（33名中29名）

（団体選出） 板倉通文、中根堅太郎、神谷賢司、板倉峰尾、竹原幸子

浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小笠原勝人、小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 林田要、須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄

杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫

金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 地域協働課長 鳥居典光、協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀

島政司、野澤武司

傍聴者 2名

会議内容

1 市民憲章唱和（副会長）

2 会長あいさつ

まだ暑い日が続いているので皆さん熱中症などには注意してください。事前に資料が送付されているので、しっかり予習してから参加して頂いていると思う。何十年か後に歴史を振り返った時に、語り継がれているような提言になるように頑張りましょう。

3 議題

(1) 検討資料の説明

※別紙参照

(2) 提言書「協働のための仕組」の作成に向けて

- ・会員22：市長が第5次総合計画やマニフェストの中で盛んに言っている5年先、10年先の財政がどうだというのが提言書案では触れられていない。原資をどうするのかをはっきりさせないと無責任な提言になってしまう気がする。そもそも論に税収がどうなるのかも書くべき。
- ・岩崎：国からの支援等は今後の政策によるので不透明な部分が多いが、市税収入の見通しなどを中心に、書いていける部分があれば足していく。
- ・会員5：高齢者に対してもお客さん扱いではなく、必要とされている大切な存在とわかるように、また生きがいを持てるようにするべき。

- ・岩 崎 : 考え方の中には絶対含んでおかなければいけない事だと思う。
- ・会員21 : なぜ、A. 人を育てる仕組み、B. やる気を起こさせる仕組み、が必要なのか。もう少し説明するべき。
- ・会員14 : 企業を巻き込む協働の視点が抜けていた。例えば日中に市内を動き回っている企業の人達から市内の情報を提供してもらうなど。防災の視点からも色々考えられたかもしれない。
- ・岩 崎 : Fの中で、協働に関する基本条例制定の検討を提言する事になっている。その中で企業の役割についても検討してもらえようにしましょう。
- ・会 員5 : 大きな物で提言するのか、それとも小さいものを一つ一つやっていくのか。何を提言していいかわからない。農商工の連携、防災等個別具体的話をして良いのか。
- ・岩 崎 : このような事を切り口にDのような組織を作っていくという書き方も出来ると思う。どういう形で書いていけるか検討したいと思う。
- ・会員24 : 先ほど企業の話が出たが、商工会議所で農商工連携を意識した話がかかり出ている。そういう所とも協働出来れば良いと思う。
- ・松 井 : 地域協働体だけじゃなく他のものとも一緒になってやっていくのは良いと思う。違う分野と一緒にやる事によって新しい防災の仕組み等も出てくるかもしれない。
- ・岩 崎 : 防災は地区の自助の話が中心になる。しかし農商工連携だと碧南全体、若しくはそれ以上の地域で繋がりが出来る。それぞれがそれぞれの立場で検討する場が必要ではないかという提言が出来ると思う。
- ・会 員9 : 課題に取り組んでいくための地区的な広がりをも明記しても良いのではないのか。
- ・岩 崎 : 面識社会を作り直していくにはどの範囲が良いのか。最適な範囲には色々な意見が出たが、いっそ地域の人が自分で決めるという方法もある。全市統一して同じ分け方をする必要はないし、既存の施設をうまく活用する事も考えたい。
- ・会員21 : モデル地区で経験を積んでから行うのもいいのではないのか。それと公民館の民営化の話とも関わってくる事だと思う。
- ・岩 崎 : 現段階ではモデル地区的に組織づくりをすると書いてあるが、もう少し検討したいと思う。
- ・会 員3 : 道路掃除などに地区や企業が参加する事が大切である。市長のマニフェストにも掃除のゆき届いたまちづくりが挙げられている。分かりやすい事なので提言に盛り込めると良いと思う。
- ・岩 崎 : 日本人は陰徳は積むが、陽徳を積むのは苦手。私達がきれいにしているとアピールするのは良い事かもしれない。どこかに具体的事例として入れていきたい。
- ・松 井 : アダプション制度というのがある。アダプションは養子という意味だが、地域

や会社が道路や広場とそういう関係になって育てていくという事も考えられる。

- ・岩崎：パブリックコメントの返答も考えないといけない。具体的事例でイメージを膨らませた方が良くと思う。
- ・会員25：Gの提言には違和感がある。研修に力を入れ、満足度100%を目指して取り組んでいる。そんな中で無理に作ったマニュアルを守ろうとしても現実的ではない。何日以内に回答をとと言われても無理な事も多い。協働との結びつきが見えないのでもう一度議論したい。
- ・会員3：例として、不法投棄の片付けをお願いしたのにいつまでも片付けられなかった事があった。レベルの高い話をしているのではなく、市民と市職員の信頼関係をこんなつまらない事で壊さないようにマニュアルを作ってきちんと対処した方が良くという事。
- ・会員35：Fの中で職員の役割・責務として書き込む事も考えられる。
- ・会員1：市職員は県の仕事だからと言って切り離すイメージがある。市政の範囲外の事であっても、県との打ち合わせにも協力していただくというような姿勢が欲しい。
- ・会員14：県がやる、市がやるという話ではなく、碧南独自で協働して解決できる団体を作り上げれば良いだけ。それを具体化する話をするべき。
- ・岩崎：地域住民の声を、市が代表して県と掛け合うという仕組みも検討していく事になるかもしれない。地域の現状と法律や仕組みが人口の減少などによってかい離している。これを合わせていくのも市の責務ではないかと思う。GについてもFの中で項目として言及したい。
- ・会員10：お客様が必要だと言っている事にどう対処していくかを検討していけば自ずと仕組みも変えていかなければいけない。過去は過去、今からは今からというようにしていかないと進まない。
- ・会員16：高齢者をいかに活用していくかが見える提言が必要である。
- ・岩崎：具体的ケースとしては挙げていなかったが、人材バンクの主なターゲットは退職者と書いてあったり、自治会業務ハンドブックには退職者の掘り起こし、公民館の民営化も団塊の世代に担ってもらおうと書いてある。さらにイメージしやすい事例などを挙げていこうと思う。
- ・会員33：Fの中では、任期を明確化した方がいい。
- ・岩崎：単年度では継続した活動が出来ないという事でしたね。提言に反映させたいと思います。
- ・会員26：Aの中で、市民活動センターの設置と人材バンクの設置、地域活動の知恵袋の作成が並列にまとめてある。人材バンクと知恵袋は市民活動センターの一機能として考えていたので違和感がある。
- ・岩崎：書き方を見直したいと思います。

- ・ 会員17：AからGまで仕組みで括られてはいるが、1年で出来るものもあれば、5年10年とかかるものもある。そういった事も優先順位に関わってくるのではないかな。
- ・ 岩崎：成果が出るまでの期間というのもしっかりと考慮しなければいけないと思う。
- ・ 会員9：一番おおもとなるFの優先順位が最も高いのではないかな。
- ・ 会員5：まずボランティアの環境を作らなければいけない。マッチングするにしても基盤が必要。養成講座などをする組織づくりが先だと思う。
- ・ 会員3：優先順位はF→B→Dだと感じる。
- ・ 会員29：まず人を育てるのが一番だと思うのでAから。
- ・ 会員3：碧南市福祉センターというのが3～5年後に出来るので、Aについての具体的なタイミングというところぐらいになる。
- ・ 岩崎：しかし、その中での機能は早い段階で準備しておかないといけない。
- ・ 会員19：優先順位はF→B→A→D→C→Eという流れではないかな。あとBの中にCも入っているのではないかなという気がする。公民館等の民営化と地域での自主的管理という言葉も入れ替えた方がイメージが良いのではないかな。
- ・ 岩崎：やる気を起こし継続してもらうための仕組みという事で整理してみようと思います。
- ・ 会員33：住民同士の評価がEに含まれていない。せめて基本ルールの中で住民同士でも評価改善していかなければいけない事を書くべき。
- ・ 会員21：Gの書き方はきつように思う。もう少し思いやりのある書き方にすべき。
- ・ 会員34：優先順位は集大成。皆さんの意見をどこかで集約した方が良いのでは。
- ・ 岩崎：来年度の市の予算に反映させたいという事からすると、市の考えと必ずしも一致させる必要はないが、無視も出来ない。
- ・ 事務局：この提言書は11月15日から市民の皆さんの目に触れる事になります。10月13日にまとまりきらなかった場合も、修正を加えた物を皆さんにご覧頂ける場が設けられるようなら構わないのかなと思っています。
- ・ 岩崎：パブリックコメントの主体はこの会。寄せられた声に対する回答もこの会で書く事になるので、意思統一は図られていないといけない。今日頂いたご意見をもとにもう一度整理して、優先順位も私達なりにつけて「協働のための仕組み(案)」として作り直してきます。次回それを検討して頂いて、皆さんの合意を得られるものにしていこうと思います。時間内で出来なかった場合でも、後日修正したものを事前に皆さんに配って、合意が得られるようにしたいと思います。

4 その他事務連絡

- ・ 第9回会議録の確認。特に意見が無いようですのでホームページで公開させていただきます。
- ・ 第11回は10月13日(水)19:00~21:00 市役所2階 談話室

第11回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成22年10月13日 19:00～

場所 市役所2階 談話室2

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（33名中30名）

（団体選出） 板倉通文、中根堅太郎、小野洋雄、板倉峰尾、竹原幸子

浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 林田要、須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄

長谷川哲巳、杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫

長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 地域協働課長 鳥居典光、協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀

島政司、野澤武司

傍聴者 3名

会議内容

1 市民憲章唱和（副会長）

2 会長あいさつ

今回で第11回になります。事前に送られた資料を、皆さん頭を悩ませながら読んだのではないかと思います。今日が最終のまとめとなりますので、消化不良のないようにディスカッションしましょう。

第10回会議録の確認。異議がないようですのでホームページで公開させていただきます。

3 議題

(1) 検討資料の説明

- ・事務局：10月13日に提言書案を確定するため、やむなく職員のみを招集して、提言書（案）について会議の場を設けた。大幅な修正となったため、その概要を朱書きにしたものを用意させて頂いたので皆様のご意見をお願いしたい。

(2) 提言書「協働のための仕組」（案）の作成

- ・会員17：この提言書は誰が誰に渡すものなのか。この提言書は読み辛い一言。冒頭の会長の言葉しか伝わってこなかった。目次が無いのも気になる。
- ・岩崎：へきなんの協働を考える会がこれまで検討した内容について、市民の皆さんに意見を頂いて、最終的に市長に提言する事になる。目次は内容が固まってから作

る事になると思うが、全般に分かり難いという点については皆さんはどうでしょうか。

- ・**会員22**：何を提言するのかがこれでは分からない。事務局が用意した修正案の10ページは評価したいと思う。しかし、提言するからには定量的な根拠を示すべき。目標値も出すべきだと思う。このメンバーでもっと時間をかけて11月12月にパブリックコメントと並行してこれの肉付けをしないと、市長と議会を顔かせるものは出来ない。どうどうと見せられる状態になるまで封切りをしないで欲しい。
- ・**会員3**：ルール of 明確化など書いてあるが、どういうルールなのか具体的に書いてない。例えばこういうふうに、というように書くべきだと思う。しかし時間がかかる事である。
- ・**会員22**：事務局が危機感を持って、他の職員と共にここまで意見を出してくれたのは非常にありがたく思う。僕も声をかけてくれれば協力した。前回意見を出した点もしっかり修正してある。しかし提言する項目が皆が納得できるものでないと難しい。
- ・**会員3**：1年間やってきた我々が理解できないものが、市民の方に理解して意見を頂けるのかというと難しいと思う。もっと分りやすくするべきだと思う。
- ・**会員14**：志を高く持ちすぎではないか。この提言書はそこまで効力のあるものではない。碧南市を変える何かのきっかけになればそれで良いと思う。色々な立場の人を集めて提言書を作るというのは間違い。それを苦労してまとめたという経緯を見せるのが大事なのではないか。
- ・**会員3**：それぞれの意見がどのグループから出た意見なのか、というのを書く必要はないのではないか。
- ・**岩崎**：目標値や基本条例の細目などを明記するのは避けるべきだと思う。いざ作ろうとなった時に、その人たちが議論する事だと思う。
- ・**会員9**：私も目標値は必要ないと思う。
- ・**会員21**：着地点は碧南の壁を確認して、いくつか課題を出す事で、後は来年以降検討していけば良いと思っている。早く表に出して意欲ある人たちに活躍の場がある事を示すべき。
- ・**会員15**：文章が続いているので読み難い。ページ数が増えても良いので1. 2. 3. としっかり区切って書くようにした方が良いのでは。
- ・**会員4**：書きぶりを変えれば分かりやすくなると思う。9ページまでをもっと上手く書けないか。はじめにの所に協働を考えなければならなくなったと書く。2ページ目に協働を考えなければならなくなった理由を事例とともに書く。3ページでへきなんの協働はこうだと考えていると書く。以降はこのように話し合ってきたと書けばまとまると思う。

- ・**会員23**：何を提言するのかという部分を最初にもってきた方が相手に伝わりやすいのではないだろうか。会長の言葉は大事なので最後にしても良いと思う。初めになぜ協働なのかを読んでいると疲れると思う。
- ・**会員11**：はじめにの三行目「臨海工業地域の造成によって」のところに企業立地という言葉を入れて欲しい。四行目「工業だけではなく、農業や漁業など」のところに商業を入れて欲しい。最後の行「作って」を「創って」に変えて欲しい。2ページ目の税金のところは詳細に記載した方が良いと思う。お金がないから協力してよ、と協働の必要性を書ける。後は行政のコンパクト化という事を提言のどこかに入れて欲しいと思う。
- ・**岩崎**：お金の件はどこまで書くのか迷った。税金の見通しというのは誰にも読めない。その中で数字をどこまで出すべきなのかは難しい。今回、私は財政的な数字を入れなかった。なぜかという、お金が無いから協働だという言い方になってしまうと、職員の給料を削れという話になってしまいかねないからである。お金が無いから協働をやるのではなく、行政だけでは絶対手が回らない状況に来ているからやる、というスタンスを明確にしたい。財政力指数が1.2を割ったという事だが、そもそも1.0を超えているところの方が少ない。
- ・**会員27**：職員も市民も1.2という生活に慣れており、0.8等は想像もできない。自分の所が贅沢だと感じていないと思う。
- ・**会員23**：市民に1.2とか言っても伝わらない。書く必要はないと思う。
- ・**会員14**：10ページ11ページをもっと分かりやすくして始めに載せれば良いのではないか。
- ・**会員19**：字が多いのでチャートや図をもっと使うべき。2種類作る事も考えられる。
- ・**会員10**：市民憲章に対して、今こういった問題点がある、だからこうすべきといったようなものを作るべき。
- ・**会員9**：他の市の例は必要ないと思う。絵などを入れて誰が見ても理解できるようにしたほうが良い。
- ・**会員8**：専門用語に解説を入れた方が良い。また、こうすると成果があるだろうといったようなプラス志向の表現にした方が良いと思う。
- ・**会員22**：箇条書きの項目だけで良いのかという検討に時間をかけるべきだと提案したが、どうなるのか。
- ・**岩崎**：項目出しとして前回意見を出してもらった。項目としてはこれで全てだと理解している。後は並び替えや強弱の整理で対応する事になると考えている。
- ・**会員22**：ハコものを市民主体で使い切るしくみといわれても、何を言いたいのか理解できない。例えば10年前はこうで、今後こうなるといったもの等を示さないとい

けない。肉付けする為のワークチームを作るべき。説得力のあるものにしないと意味が無い。

- ・ **会員28** : 文章的に市民からみて分かり難い。改めて皆さんに見直してもらい、直したほうが良い点や分かり難いと思う点を提出の日付を決めておき、それまでに意見を出すようにするというのはいかがでしょうか。
- ・ **事務局** : 11月15日からパブリックコメントにかけますので、後1ヶ月は時間があります。
- ・ **岩崎** : 頂いたご意見をまとめる時間を考えると10月20日までに協働課にご意見をお寄せ下さいという事にしたいと思います。
- ・ **会員21** : 1ページ目に魅力が無いといけない。
- ・ **会員3** : 一般市民が読むとなるともう少し分かりやすくして欲しいという希望がある。しかし皆で検討していてもまとまらないと思う。項目についても皆さん意見があると思うが、信頼してお任せするという形にしないといけないのではないか。我々にとって大切なのは、提言を受け取って頂いて実現に向けて努力していく事ではないか。細かいまとめというのは事務局に一任するという事で皆さんいかがでしょうか。

一同拍手

(3) シンポジウムについて

- ・ **岩崎** : パブリックコメントで頂いた意見に対して検討会をしなければいけませんし、さらにその結果を市民の皆さんに報告する必要があります。
- ・ **事務局** : 2月20日にシンポジウムを開催致します。会場は芸術文化ホールを予定しています。300名で満員御礼になりますので、皆さんお声掛けの協力をお願い致します。内容に関しては、提言書の冒頭にある「なぜ」の部分について岩崎先生に講演をお願いしたいと思っています。提言内容につきましては会員の皆様から何人か代表者を選出して発表して頂きたいと思います。提言書を市長に渡す役割は会長にお願いする事になると思います。パネルディスカッションとして市長を交えて協働について語り合う場も設けたいと考えています。

提言内容の発表が5~6人。パネルディスカッションが3人程度で立候補して頂けるとありがたいのですが。

- ・ **会員14** : パネルディスカッションに立候補します。
- ・ **会員3** : 私もパネルディスカッションに立候補します。残り的人選は事務局の方に任せましょう。
- ・ **岩崎** : では事務局から個別に相談に伺うという事にしたいと思います。
- ・ **会員3** : これで約一年間のディスカッションのまとめという事になりますが、特に発言したい事があればどうぞ。

- ・**会員14**：提言書が公開された後にガス抜きの意味を込めて忘年会をセットして頂きたいと思うのですがどうでしょうか。自由参加で構いません。
- ・**会員3**：忘年会か新年会か分かりませんが、開催したいと思います。
- ・**事務局**：色々な宿題を頂きましたので、案を作って皆さんにご案内させて頂こうと思います。10月20日までにご意見を頂いて、先生方と修正案としてまとめて皆さんにお送りしたいと思います。最終的には中根会長に御一任頂くことになると思いますが御容赦願います。

4 その他事務連絡

- ・第12回は1月12日(水) 19:00~21:00 市役所2階 会議室4・5

第12回 へきなんの協働を考える会 会議録

日時 平成23年1月26日 19:00～

場所 市役所2階 会議室4・5

出席者

アドバイザー

岩崎恭典、松井真理子、小林慶太郎

会員（33名中31名）

（団体選出） 板倉通文、川原克人、中根堅太郎、小野洋雄、板倉峰尾、竹原幸子、浅井宣、遠山良徳、磯貝忠通、小笠原勝人、小林道広、永坂幸子、森下昌美

（公募市民） 林田要、須田翠子、荒井秋男、本田和明、石川清勝、石川幸雄
杉浦彰

（市職員） 杉浦英樹、菅沼正義、鈴木博道、堀田葉子、松野盛高、金原厚夫
長谷川有里、金田雪雄、鈴木美奈子、鈴木洋平、岡本和雄

（事務局） 市民協働部長 片山初敏、地域協働課長 鳥居典光

協働推進係長 生田和重、協働推進担当係長 亀島政司、野澤武司

傍聴者 1名

会議内容

1 市民憲章唱和（副会長）

2 会長あいさつ

3 議題

（1）意見募集の結果について

- ・事務局：意見募集に1件の応募があった。内容は、市民祭り「元気ッスへきなん」にもっと市民の参加を促し、盛り上げていくべきだというものだった。提言書の中にも、積極的な公募、市民参加が盛り込まれているため、特に修正は加えずに、提言書の内容を確定してよろしいか。

- ・会員全員：異議なし。

（2）シンポジウムについて

会員全員で自らシンポジウムを作っていく方針を決定し、役割分担、スケジュール等の内容を検討した。